〔医療管理学講座〕

（1）医療情報学分野

1. 研究の概要

医療および生命科学領域のビッグデータを対象に，データマイニング手法等を駆使し，新たな知見を発見する研究を進めている。具体的な研究テーマは以下である。

- 大規模医薬品有害事象データベースの構築と有害事象分析の研究
- 医療・診療データを活用した効果的なマネジメントの実践と医療の質向上
- その他

2. 名簿

教授：　紀ノ定保臣　Yasutomi Kinosada
准教授：　一宮尚志　Takashi Ichinomiya

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1) 紀ノ定保臣．創薬におけるデータマイニング技術の活用事例：国際医療福祉総合研究所 HealthCare Innovation21 研究会編．医療におけるデータマイニング講座，東京：株式会社日本医学出版；2012 年：57－65.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

1) 紀ノ定保臣．新世代に突入！　医療情報システムにおける次の一手，映像情報メディカル　2012 年；第 44 巻：162－166.
2) 紀ノ定保臣，森口修逸．医療情報の完全デジタル化で「ISMS の実践」が必須化！，Phase3　2012 年；第 331 号：72－73.
3) 紀ノ定保臣，森口修逸．保健・医療の充実に向けた個人情報の有効活用への動き，Phase3　2012 年；第 332 号：74－75.
4) 紀ノ定保臣．地域医療情報研究開発機構(CHIRD)の活動，JAPIC NEWS　2012 年；No.337：10－11.
5) 佐藤菊枝，長瀬清，紀ノ定保臣．診療と経営に生かすデータマネジメント手法，IT VISION　2012 年；No.26：46－50.
6) 荒井　迅，一宮尚志，浦本武雄，小嶋　泉，勝股審也，西郷甲矢人，鈴木咲衣，蓮尾一郎，長谷川真人，春名太一．圏論の歩き方(第 8 回)歩き方の使い方，数学セミナー　2012 年；51 巻 3 号：85－91.
7) 荒井　迅，池上英子，一宮尚志，浦本武雄，小嶋　泉，勝俣審也，西郷甲矢人，鈴木咲衣，土岡俊介，蓮尾一郎，Piet Hut，春名太一，星野直彦．圏論の歩き方(第 16 回)「数学本流」にはなりたくない，数学セミナー 2012 年；51 巻 11 号：79－85.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

1) 梅津亮冴，西端友里，阿部純子，鈴木悠起也，原　英彰，永澤秀子，紀ノ定保臣，中村光浩．日本国内の有害事象自発報告データベース(JADER)を用いたデータマイニングによる経口血糖降下薬と低血糖症との関連性の評価，薬学雑誌　2014 年；134 巻：299－304.

原著（欧文）

1) Yamamoto K, Tamura S, Hayamizu S, Kinosada Y. Visual Analysis of Health Checkup Data Using Multidimensional Scaling. J Ad Comput Intel Intel Informatics. 2012;16:26-31.
2) Shimizu H, Matsushima S, Kinosada Y, Miyamura H, Tomita N, Kubota T, Osaki H, Nakayama M, Yoshimoto M, Kodaira T. Evaluation of parotid gland function using equivalent cross-relaxation rate imaging applied magnetization transfer effect. J Radiat Res. 2012;53:138-144.　IF 1.691
3) Ichinomiya T. Bouchaud-Mezard model on a random network. Phys Rev E. 2012;86:036111.　IF 2.326
4) Ichinomiya T. Wealth distribution on complex networks. Phys Rev E. 2012;86:066115.　IF 2.326
5) Ichinomiya T. Temporal coarse-graining method to simulate the movement of atoms. J Comput Phys. 2013;251:319-326.　IF 2.485
6) Ichinomiya T. Power-law exponent of the Bouchaud-Mézard model on regular random networks. Phys Rev E. 2013;88:012819.　IF 2.326

7) Kawamoto R, Nazir A, Kameyama A, Ichinomiya T, Yamamoto K, Tamura S, Yamamoto M, Hayamizu S, Kinosada Y. Hidden Markov model for analyzing time-series health checkup data. Stud Health Technol Inform. 2013;192:491-495. IF 2.326
8) Nazir A, Ichinomiya T, Miyamura N, Sekiya Y, Kinosada Y. Identification of Suicide-Related Events Through Network Analysis of Adverse Event Reports. Drug Safety. 2014;37:609-616 IF 2.620
9) Yanagita T, Ichinomiya T. Thermodynamic characterization of synchronization-optimized oscillator networks. Phys Rev E. 2014;90:062914. IF 2.326
10) Umetsu R, Nishibata Y, Abe J, Suzuki Y, Hara H, Nagasawa H, Kinosada Y, Nakamura M. Evaluation of the association between the use of oral anti-hyperglycemic agents and hypoglycemia in Japan by data mining of the Japanese Adverse Drug Event Report (JADER) database. Yakugaku Zasshi. 2014;2:299-304. IF 0.310
11) Matsushima S, Sato Y, Yamamura H, Kato M, Kinosada Y, Era S, Takahashi K, Inaba Y. Visualization of liver uptake function using the uptake contrast-enhanced ratio in hepatobiliary phase imaging. Magn Reson Imaging. 2014;32:654-659. IF 2.022

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1) 研究代表者：梶井英治(自治医科大学), 研究分担者：中村好一, 石川鎮清, 岡山雅信, 藍原雅一, 紀ノ定保臣, 関　庸一, 本多正幸, 小荒井衛, 古城隆雄；科学研究費補助金基盤研究(A)：地域医療データバンクの活用による地域医療需要と医療資源から見た地域医療の効率化；平成 23－26 年度；37,800 千円(21,600：4,800：7,000：4,400 千円)
2) 研究代表者：紀ノ定保臣, 研究分担者：中村光浩, 伊藤善規；科学研究費補助金基盤研究(B)：医薬品適正使用支援システムの開発と高度医療専門職人材育成への応用；平成 24－26 年度；11,500 千円(4,600：3,100：3,800 千円)
3) 研究代表者：一宮尚志；科学技術振興機構『さきがけ』数学と諸分野の協働によるブレークスルーの探索：数学を応用した新しい動力学シミュレーション法の開発；平成 21－24 年度；9,800 千円(3,200：2,650：1,750：2,200 千円)
4) 研究代表者：西浦廉政(東北大学 AIMR), 研究分担者：高石武史, 平岡裕章, 一宮尚志；戦略的イノベーション創造プログラム「革新的構造材料」：マテリアルズインテグレーションへの数学的アプローチ技術開発；平成 26－30 年度；4,370 千円(1,150：805：805：805：805 千円)

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

紀ノ定保臣：
1) 日本磁気共鳴医学会監事(～現在)
2) 日本生体医工学会代議員(～現在)
3) 日本医療情報学会評議員(～現在)
4) 日本医学放射線学会電子情報委員会委員(～現在)

2）学会開催

紀ノ定保臣：
1) 患者の視点に立った医療データ分析に関する研究第 2 回シンポジウム(平成 24 年 7 月, 東京)
2) 第 41 回日本 M テクノロジー学会大会(平成 26 年 8 月, 三重)

3）学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

紀ノ定保臣：

1) 平成 23 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議(平成 24 年 1 月，松山，「クラウドで何が変わるか？－医療情報システムのクラウド化の経験から－」座長)
2) 平成 23 年度岐阜県医師会総合医療情報ネットワーク・岐阜地区総合医療情報ネットワーク合同総会(平成 24 年 3 月，岐阜,「個人情報が入った大規模診療データ等の取扱いについて」演者)
3) Forum on Digital Hospital Development and Management(2012.06, Shanghai, Current Situation of Hospital Information Systems and Future in Japan; Speaker)
4) 第 15 回日本医薬品情報学会総会・学術大会(平成 24 年 7 月，大阪，教育講演「データマイニングの考え方とその実践」演者)
5) CARS2012(2012.07, PISA, Italy, On integrated platform for health care data bank to visualize and increase efficiency of the clinical service; Speaker)
6) 次世代医療技術・機器研究会(平成 24 年 10 月，愛知，講演「個人毎の体質に応じた個別化医療支援システムの開発」演者)
7) 科学技術と経済の会(平成 26 年 3 月，東京，講演「医療マネジメントとビッグデータ」演者)
8) Oracle Industry Leadership Summit 2014(平成 26 年 4 月，東京，講演「ビッグデータ利活用による医療の質向上」演者)
9) 医療ビッグデータ・サミット 2014(平成 26 年 7 月，東京，講演「データ活用で医療の質向上」演者)
10) 協会けんぽ岐阜支部講演会(平成 26 年 7 月，岐阜，講演「ヘルスケア分野におけるビッグデータの活用」演者)
11) モダンホスピタルショウ(平成 26 年 7 月，東京，講演「ビッグデータを活用した医療の質向上」演者)
12) 糖尿病情報学会(平成 26 年 8 月，岐阜，講演「地域連携と職域連携を支援する医療情報システムの在り方」演者)
13) 日本看護歴史学会(平成 26 年 9 月，岐阜，講演「電子カルテシステムの活用」演者)
14) 日本鍼灸師全国大会(平成 26 年 10 月，岐阜，講演「ビッグデータの活用」演者)
15) 粟田静枝診療録管理研究会(平成 26 年 11 月，東京，講演「医療の質向上に向けたビッグデータの活用」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

紀ノ定保臣：

1) 全国健康保険協会岐阜支部評議会評議員(～現在)
2) 岐阜県医師会勤務医部会 IT 委員会委員長(～現在)
3) 岐阜県医師会情報システム委員会委員(～現在)
4) 岐阜県医師会勤務医部会学術委員(～現在)
5) 一般社団法人 SDM コンソーシアム理事長(～現在)

一宮尚志：

1) 科学技術振興機構研究開発戦略センター　電子情報通信分野俯瞰プロジェクト　未来研究検討開発委員会委員(～平成 24 年 3 月)

10. 報告書

なし

11. 報道

1) 一宮尚志：「研究室から　大学はいま」5 年後の健康状態を予測：岐阜新聞(2012 年 8 月 28 日)
2) 紀ノ定保臣：クローズアップ現代“ムダの見える化で医療の質を上げろ”：NHK 総合(2013 年 10 月 2 日)
3) 紀ノ定保臣：医療ビッグデータの萌芽　データ活用による“見える化”が大学病院を変えた：日経デジタルヘルス(2014 年 6 月 11 日)

4） 紀ノ定保臣：データの活用，地域貢献　日本鍼灸師会　岐阜市で全国大会：岐阜新聞(2014 年 10 月 13 日)

12. 自己評価

評価

直近 4 年間は連合創薬医療情報研究科の研究科長を担当したため，研究論文の件数を増やすことができなかった。一方，ビッグデータに対する社会の関心が高く，そのような内容についての講演依頼が多く，社会へのメッセージは充分に発信できた。

現状の問題点及びその対応策

研究論文を作成することが大きな課題であるが，次年度は数本の学術論文を投稿できる状況になっている。

今後の展望

学術論文を増やすとともに，学位取得者を多くしたい。

（2）総合病態内科学分野

1. 研究の概要

1）肥満によるインスリン抵抗性発現の機序に関する研究

肥満は脂肪細胞の肥大化と過形成にから成っている。しかしこれらがどのように調節されているかは解明されていない。以前の検討から，脂肪組織はまず全身の糖代謝に影響の少ない皮下脂肪，傍精巣脂肪から肥満が始まり，ついで影響の多い腸間膜脂肪の肥満に至る事，若年期には脂肪細胞の増殖が盛んで，特に肥満動物では細胞増殖が多いが，ある一定の増殖を超えるとそれ以上増殖せず，その後細胞の肥大化が進むという事を見出した。現在肥満，非肥満動物に経時的に EdU を投与して，脂肪組織全体の細胞増殖を検討すると共に，細胞表面マーカーに対する免疫染色でどの種類の細胞（脂肪細胞，前脂肪細胞，血管細胞，幹細胞など）の細胞増殖が活発かを解明する。

2）成熟脂肪細胞の増殖に関する研究

脂肪細胞は前脂肪細胞から細胞増殖停止の後，PPARγ，C/EBP のような key regulator となる転写因子を発現し，これが脂肪細胞に特異的な蛋白の発現を促し，最終的な成熟脂肪細胞に分化するとされている。しかし梶田はこのシナリオでは説明ができない，小型で脂肪滴を持たず，増殖しながらも adiponectin などの脂肪細胞特異的蛋白を発現する細胞を見出し，small proliferative adipocyte (SPA)を名付けた。この細胞の性情と糖，脂肪代謝，インスリン感受性における役割を検討している。

3）Sphingosine 1-phosphate (S1P) の脂肪細胞増殖，分化に対する役割

S1P は癌，免疫，循環器，中枢神経など様々な細胞の増殖，生存，遊走，血管新生などにかかわる事が知られているが，脂肪細胞への役割は殆ど知られていない。梶田は慶応大学の石井功准教授から S1P receptor 2 欠損マウスを譲渡され，現在飼育中である。このマウスはやせ形であるが，糖脂肪食負荷で wild type と同程度に体重，脂肪重量が増加するが，脂肪細胞の肥大化はなく，耐糖能，インスリン感受性も良好である。このメカニズムを解明中である。

4）旋毛虫感染による糖尿病改善機序に関する研究

多くの慢性炎症では耐糖能は悪化する事が多いが，寄生虫感染ではこれが改善した。その機序として，近年注目されている脂肪組織の炎症が，寄生虫感染により改善されたと考えられた。

5）p140-Cap の膵β細胞における役割，糖尿病発症への関与に関する研究

愛知県コロニーの永田浩一先生との共同研究で，もともと脳に多く発現している p140-Cap という蛋白が膵β細胞にも発現している事が見出され，この機能の解析を行っている。現在，主に糖尿病モデルである，OLETF と GK ラットの膵β細胞において，p140-Cap がどのように発現されているかを検討している。

6）ステロイド糖尿病に対する治療に関する研究

グルココルチコイドは，肝での糖新生亢進，筋・脂肪細胞での糖取り込み低下，高グルカゴン血症などを介して耐糖能を低下させ，血糖値を上昇させる。このためしばしばインスリンを使用する必要が出てくるが，それをグルココルチコイド投与前に予測することが可能かどうかについて，またその因子とカットオフ値に関して研究を進めている。また，血糖依存性に血糖低下作用を発現し，グルカゴン分泌を抑制する GLP-1 アナログによるステロイド糖尿病治療の有用性もインスリン治療との比較で検討中である。

7）腎機能障害とピロリ菌感染に関する研究

江南市の佐藤病院との共同研究で，糖尿病患者や血液透析患者で上部消化管内視鏡検査を行う機会がしばしばあるが，その際ピロリ菌感染率に健常者と差がみられないかについて継時的に研究している。透析患者では非透析患者に比べピロリ菌感染率が低いことは知られているが，その原因については良く知られていない。腎機能との関連で，ピロリ菌感染がどのように減少してゆくのかを検討している。

8）発熱患者の鑑別診断に関する研究

発熱患者の原因は非常に多岐にわたり，診断にも難渋することが多い。発熱の 3 大疾患は，感染症，膠原病，腫瘍である。細菌感染症に注目し，血液培養陽性予測因子の解明についての研究を行っている。また，最近臨床応用されるようになったプロカルシトニンの発熱患者における臨床的意義についても研究している。

9）ステロイド投与患者におけるデノスマブとアレンドロネート無作為割り付け比較試験

「ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療ガイドライン（2014 年度版)」によると，ステロイド骨粗鬆症治療の第 1 選択薬としてアレンドロネートなどのビスホスホネート製剤があるが，顎骨壊死，治療中の骨折，長期使用での大腿骨の非定型骨折が起こるなどの問題点もある。デノスマブは receptor activating NF-κB ligand (RANKL) の中和抗体で，2013 年に骨粗鬆症治療薬として承認された。6 ヶ月に 1 回の皮下注射薬で，治療継続率の向上が期待され，骨吸収抑制効果はビスホスホネート製剤を上回るとされている。ステロイド投与患者でのアレンドロネートとデノスマブの有効性および安全性を比較検討の臨床試験

を開始している。

2. 名簿

教授：　森田浩之　Hiroyuki Morita
准教授：　梶田和男　Kazuo Kajita
助教：　池田貴英　Takahide Ikeda
助教：　森　一郎　Ichiro Mori
助教：　山内雅裕　Masahiro Yamauchi

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1) 雨宮伸，石塚達夫，岩瀬正典，植木彬夫，絵本正憲，島田朗，杉山隆，関口雅友，成田琢磨，藤本新平，間中英夫，山根公則．糖尿病療養指導の手びき．改訂第 4 版(日本糖尿病学会編)；東京：日本糖尿病学会・南江堂；2012 年.
2) 森田浩之．コラム　いつも手から：内科学研鑽会編集．カルテはこう書け！目からウロコ「総合プロブレム方式」，東京：㈱新興医学出版社；2013 年：14.
3) 森田浩之．コラム　気をつけよう、ノートパソコンとのにらめっこ：内科学研鑽会編集．カルテはこう書け！目からウロコ「総合プロブレム方式」，東京：㈱新興医学出版社；2013 年：45.
4) 藤岡　圭．全身倦怠感、口渇で受診した 33 歳男性：内科学研鑽会編集．カルテはこう書け！目からウロコ「総合プロブレム方式」，東京：㈱新興医学出版社；2013 年：32－36.
5) 岡田英之．四肢浮腫、肩関節痛を主訴に来院した 75 歳男性：内科学研鑽会編集．カルテはこう書け！目からウロコ「総合プロブレム方式」，東京：㈱新興医学出版社；2013 年：73－78.
6) 石塚達夫．今日の診断・治療の概要：日本遠隔医療学会編集委員会監修．遠隔診療実践マニュアル　在宅医療推進のために，東京：篠原出版新社；2013 年：13－45.
7) 森田浩之，林祐一．遠隔診療の実際　神経・筋・骨格疾患：日本遠隔医療学会編集委員会監修．遠隔診療実践マニュアル　在宅医療推進のために，東京：篠原出版新社；2013 年：104－114.
8) 池田貴英. 遠隔診療の実際　消化器疾患：日本遠隔医療学会編集委員会監修. 遠隔診療実践マニュアル　在宅医療推進のために，東京：篠原出版新社；2013 年：136－143.
9) 森田浩之．遠隔診療の実際　内分泌・代謝疾患：日本遠隔医療学会編集委員会監修．遠隔診療実践マニュアル　在宅医療推進のために，東京：篠原出版新社；2013 年：144－151.
10) 森田浩之，長谷川高志，酒巻哲夫．遠隔診療のカルテから：日本遠隔医療学会編集委員会監修．遠隔診療実践マニュアル　在宅医療推進のために，東京：篠原出版新社；2013 年：212－215.
11) 石塚達夫．訴えとしてのコモンディジーズ　不安感：日本内科学会専門医部会編集．コモンディジーズブック　日常外来での鑑別と患者への説明のために，東京：日本内科学会；2013 年：90－94.
12) 石塚達夫．糖尿病性合併症への対応の展望(発言)がんからみた糖尿病：堀田　饒，清野　裕，門脇　孝，柏木厚典，中村二郎編集．糖尿病 UP・DATE 賢島セミナー29　糖尿病治療のイノベーション　生活習慣病としての糖尿病，東京：時事通信社；2013 年：210－219.
13) 石塚達夫．糖尿病性合併症への対応の展望(総合討論)糖尿病外来では，毎年がん検診を薦めるべきか　がんの合併検査を行う場合の目安は：堀田　饒，清野　裕，門脇　孝，柏木厚典，中村二郎編集．糖尿病 UP・DATE 賢島セミナー29　糖尿病治療薬のイノベーション　生活習慣病としての糖尿病，東京：時事通信社；2013 年：232－234.
14) 石塚達夫．1 型糖尿病はどのように治療するのか：日本糖尿病学会編集．糖尿病治療の手びき　改訂第 55 版増補，東京：南江堂；2013 年：53－66.
15) 森田浩之．副腎皮質ステロイドホルモン抵抗症および過敏症：小川　聡総編集，伊藤　裕，花房俊昭部門編集．内科学書　改訂第 8 版　5 内分泌疾患 代謝栄養疾患，東京：中山書店；2013 年：185－187.
16) 森田浩之. 国試対策問題編集委員会編集. 医師国家試験のためのレビューブック必修・禁忌 第 3 版，東京：㈱メディックメディア；2014 年：V_2－74.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

1) 石塚達夫．編集後記，日本遠隔医療学会雑誌　2012；8 巻：83.
2) 石塚達夫，袴田康弘，中村真潮，林登志雄，森田　浩，西垣和彦，山守育雄，森田浩之．第 14 回東海支部内科専門医部会教育セミナー，生活習慣病への治療戦略，日本内科学会雑誌　2012 年；101 巻：2342－2349.
3) 吉富　淳，中西孝之，松下正伸，海野　啓，池田貴英，袴田康弘，森田浩之．第 15 回東海支部内科専門医部会教育セミナー，プロブレムで考える症例検討会 - 著明な腹水を伴った高齢男性，日本内科学会雑誌 2012 年；101 巻：3577－3584.
4) 石塚達夫，福澤嘉孝，田中章景，堅村信介，堀川幸男，松林宏行，保住　功．第 16 回東海支部内科専門医部会教育セミナー　内科疾患における遺伝子異常，日本内科学会雑誌　2013 年；102 巻：1001－1009.

5) 石塚達夫，福沢嘉孝，加藤義郎，木村暁夫，鈴木大介，堀木紀行，三輪啓志，森田浩之，金子春生．第 17 回東海支部内科専門医部会教育セミナー　腫瘍と内科疾患，日本内科学会雑誌　2013 年；102 巻：2998－3006.
6) 石塚達夫．特集　外来診療のゴールドスタンダードとピットフォール [再診・通院]再診・通院患者の病態別の診かた　2 型糖尿病，レジデント　2013 年；6 巻：56－67.
7) 森田浩之．発熱患者の診断アプローチ，岐阜市医師会だより　2013 年；45 巻：21－22.
8) 石塚達夫，森田浩之，梶田和男，森　一郎，藤岡　圭．病院総合診療医の未来へのメッセージ，日本病院総合診療医学会雑誌　2013 年；4 巻：1－9.
9) 石塚達夫．編集後記，日本遠隔医療学会雑誌　2013 年；9 巻：64.
10) 森田浩之．ベーチェット病治療の新たな展開，医療講演と相談会　ベーチェット病編，岐阜県希少難病友の会(くぬぎの会)　2013 年.
11) 石塚達夫，森田浩之．特集：実践的糖尿病療養指導に活かす　インスリン読本　注意が必要なインスリン治療　ステロイド使用患者・免疫抑制薬使用患者，糖尿病診療マスター　2013 年；11 巻(増刊号 No.7)：675－681.
12) 石塚達夫．編集後記，日本遠隔医療学会雑誌　2013 年；9 巻：255.
13) 石塚達夫．2 次性高血圧について，内科会だより．10 月内科会　2013 年；1－2.
14) 森田浩之．画像 de クイズ(主訴：腰痛　答え：急性骨髄性白血病)，Modern Physician　2014 年；34 巻：231－232.
15) 高橋典子．画像 de クイズ(主訴：四肢の腫瘤　答え：尿酸(UA)11.1mg/dL)，Modern Physician　2014 年；34 巻：233－234.
16) 石塚達夫．画像 de クイズ(主訴：有痛性紅斑　答え：白血球破砕性血管炎)，Modern Physician　2014 年；34 巻：345－346.
17) 森　一郎．画像 de クイズ(主訴：発熱　答え：横紋筋腫)，Modern Physician　2014 年；34 巻：347－348.
18) 森田浩之．先生　こんにちは，ささえ(くぬぎの会＝会員交流誌)　2014 年：35.
19) 池田貴英．画像 de クイズ(主訴：発熱　答え：基礎疾患として糖尿病が多い)，Modern Physician　2014 年；34 巻：437－438.
20) 高橋典子．画像 de クイズ(主訴：持続する頭痛　答え：肥厚性硬膜炎)，Modern Physician　2014 年；34 巻：439－440.
21) 石塚達夫，福沢嘉孝，長坂光夫，谷川高士，志智大介，森田浩之，平松伸朗．第 18 回東海支部内科専門医部会教育セミナー　炎症性疾患，日本内科学会雑誌　2014 年；103 巻：1195－1202.
22) 森　一郎．画像 de クイズ(主訴：関節可動域制限)，Modern Physician　2014 年；34 巻：735－736.
23) 梶田和男．画像 de クイズ(主訴：白内障手術前検査時の X 線像の異常)，Modern Physician　2014 年；34 巻：863－866.
24) 森田浩之．画像 de クイズ(主訴：胸痛，主訴：頭痛)，Modern Physician　2014 年；34 巻：983－987.
25) 石塚達夫，森　一郎．専門医部会　シリーズ：患者の言葉・身体所見を読み解く　不安感と食思不振を認めた 1 例，日本内科学会雑誌　2014 年；103 巻：1972－1975.
26) 森田浩之．新任教授紹介，岐阜大学医学部記念会館だより　2014 年；105.
27) 森田浩之．画像 de クイズ(主訴：多発関節痛　答え：強直性脊推炎)，Modern Physician　2014 年；34 巻：1109－1110.
28) 谷本真由実．画像 de クイズ(主訴：こめかみの腫瘤　答え：急性リンパ性白血病)，Modern Physician　2014 年；34 巻：1239－1240.

総説（欧文）
なし

原著（和文）
1) 長谷川高志，郡　隆之，斎藤勇一郎，酒巻哲夫，森田浩之，岡田宏基，柏木賢治，辻　正次，石塚達夫．訪問診療における遠隔診療の効果に関する多施設前向き研究，日本遠隔医療学会雑誌　2012；8 巻：205-208.
2) 石塚達夫，梶田和男，山内雅裕，森　一郎，森田浩之．研究レポート　第 12 回中国地区身体疾患とストレス研究会　糖尿病診療－インスリン治療導入時の留意点も含めて－，分子精神医学　2013 年；13 巻：316－320.
3) 郡　隆之，酒巻哲夫，長谷川高志，岡田宏基，森田浩之，斎藤勇一郎，石塚達夫，辻　正次，小笠原文雄，太田隆正．訪問診療における遠隔診療の事象発生，移動時間，QOL に関する症例比較多施設前向き研究，日本遠隔医療学会雑誌　2013 年；9 巻：110－113.
4) 長谷川高志，酒巻哲夫，岡田宏基，森田浩之，郡　隆之，斎藤勇一郎，石塚達夫，辻　正次，小笠原文雄，太田隆正．在宅医療の情報流通と IT 化の状況の研究，日本遠隔医療学会雑誌　2013 年；9 巻：114－117.
5) 長谷川高志，酒巻哲夫，斎藤勇一郎，石塚達夫，森田浩之，辻　正次，岡田宏基，郡　隆之，太田隆正．厚生労働科学研究「在宅医療での ICT および遠隔診療活用に関する調査研究(H24 - 医療 - 指定 - 048)」報告，日本遠隔医療学会雑誌　2013 年；9 巻：48－50.
6) 長谷川高志，酒巻哲夫，本多正幸，森田浩之，山口義生，木村久美子，小笠原文雄，井下秀樹，宮崎芳子．遠隔医療の普及手段を考える　－現場医療者への遠隔医療スキルの育成－，医療情報学　2013；33 巻：66－69.
7) 石塚達夫，岡田英之，森　一郎，梶田和男，森田浩之．総合診療医として忘れられないこの 1 例　低血糖

を頻発した関節リウマチ合併インスリン受容体異常症 B 型, 日本病院総合診療医学会雑誌　2014 年;6 巻: 17－24.

8) 長谷川高志，酒巻哲夫，本多正幸，中島直樹，岡田宏基，石塚達夫，森田浩之，辻　正次，吉田晃敏，斉藤勇一郎，大熊由紀子，郡　隆之，煎本正博，土橋康成，小笠原敏浩，小笠原文雄，太田隆正，松井英男，守屋　潔．遠隔医療の更なる普及・拡大方策の研究　2013 年度厚生労働科学研究成果報告，日本遠隔医療学会雑誌　2014 年；10 巻：234－237.

9) 川島実可子，田口皓一郎，北田善彦，森　一郎，山内雅裕，谷本真由実，池田貴英，梶田和男，森田浩之，石塚達夫．大動脈壁肥厚を呈した顕微鏡的多発血管炎の 2 例，日本内科学会雑誌　2014 年；103 巻：3099－3102.

原著（欧文）

1) Ikeda T, Toyama S, Ogasawara M, Amano H, Takasaki Y, Morita H, Ishizuka T. Rheumatoid arthritis complicated with immunodeficiency-associated lymphoproliferative disorders during treatment with adalimumab. Mod Rheumatol. 2012;22:458-462. IF 2.206

2) Fujioka K, Kajita K, Zhiliang W, Hanamoto T, Ikeda T, Mori I, Okada H, Yamauchi M, Uno Y, Morita H, Nagano I, Tatakahashi Y, Ishizuka T. Dehydroepiandrosterone reduces preadipocyte proliferation via androgen receptor. Am J Physiol Endocrinol Metab. 2012;302:694-704. IF 4.088

3) Sekine A, Takahashi N, Watanabe T, Osawa Y, Ikeda T, Mori I, Kaji K, Morita H, Hirose Y, Seishima M, Ishizuka T. Adult intussusception of the descending colon due to inflammatory myofibroblastic proliferation. Clin J Gastroenterol. 2012;5:74-78.

4) Kajita K, Mori I, Hanamoto T, Ikeda T, Fujioka K, Yamauchi M, Okada H, Usui T, Takahashi N, Kitada Y, Taguchi K, Kajita T, Uno Y, Morita H, Ishizuka T. Pioglitazone enhances small-sized adipocyte proliferation in subcutaneous adipose tissue. Endocr J. 2012;59:1107-1114. IF 2.019

5) Morita H, Ikeda T, Kajita K, Fujioka K, Mori I, Okada H, Uno Y, Ishizuka T. Effect of royal jelly ingestion for six months on healthy volunteers. Nutr J. 2012;11:77. IF 2.635

6) Yamauchi M, Sudo K, Ito H, Iwamoto I, Morishita R, Murai T, Kajita K, Ishizuka T, Nagata K. Localization of multidomain adaptor proteins, p140Cap and vinexin, in the pancreatic islet of a spontaneous diabetes mellitus model, Otsuka-Long-Evans-Tokushima fatty rats. Med Mol Morphol. 2013;46:41-48. IF 1.070

7) Yamada K, Tsunoda K, Kawai K, Ikeda T, Taguchi K, Kajita K, Morita H, Ishizuka T. Mitochondria toxicity of antihyperlipidemic agents bezafibrate and fenofibrate. Diabetol Int. 2013;4:126-131.

8) Kajita K, Mori I, Kitada Y, Taguchi K, Kajita T, Hanamoto T, Ikeda T, Fujioka K, Yamauchi M, Okada H, Usui T, Uno Y, Morita H, Ishizuka T. Small proliferative adipocytes: identification of proliferative cells expressing adipocyte markers. Endocr J. 2013;60:931-939. IF 2.019

9) Hanamoto T, Kajita K, Mori I, Ikeda T, Fujioka K, Yamauchi M, Okada H, Usui T, Takahashi N, Kitada Y, Taguchi K, Kajita T, Uno Y, Morita H, Ishizuka T. The role of small proliferative adipocytes in the development of obesity: comparison between Otsuka Long-Evans Tokushima fatty (OLETF) rats and non-obese Long-Evans Tokushima Otsuka (LETO) rats. Endocr J. 2013;60:1001-1011. IF 2.019

10) Kohri T, Sakamaki T, Hasegawa T, Okada H, Morita H, Saito Y, Ishizuka T, Tsuji M, Ogasawara B, Ota T. Prospective multicenter case-control study of telemedicine for home medical care. Stud Health Technol Inform. 2013;192:963.

11) Naito T, Mizooka M, Mitsumoto F, Kanazawa K, Torikai K, Ohno S, Morita H, Ukimura A, Mishima N, Otsuka F, Ohyama Y, Nara N, Murakami K, Mashiba K, Akazawa K, Yamamoto K, Senda S, Yamanouchi M, Tazuma S, Hayashi J. Diagnostic workup for fever of unknown origin: a multicenter collaborative retrospective study. BMJ Open. 2013;e003971. IF 2.063

12) Okada H, Ikeda T, Kajita K, Mori I, Hanamoto T, Fujioka K, Yamauchi M, Usui T, Takahashi N, Kajita T, Taguchi K, Uno Y, Morita H, Wu Z, Nagano I, Takahashi U, Kudo T, Furuya K, Yamada T, Ishizuka T. Effect of nematode Trichinella infection on glucose tolerance and status of macrophage in obese mice. Endocr J. 2013;60:1241-1249. IF 2.019

13) Ohtaki H, Ohkusu K, Ohta H, Miyazaki T, Yonetamari J, Usui T, Mori I, Ito H, Ishizuka T, Seishima M. A case of sepsis caused by Streptococcus canis in a dog owner: a first case report of sepsis without dog bite in Japan. J Infect Chemother. 2013;19:1206-1209. IF 1.384

14) Mune T, Suwa T, Morita H, Isomura Y, Takada N, Yamamoto Y, Hayashi M, Yamakita N, Sasaki A, Takeda N, Takeda J, White PC, Kaku K. 2. Longer HSD11B2 CA-repeat in impaired glucose tolerance and type 2 diabetes. Endocr J. 2013;60:671-678. IF 2.019

15) Mune T, Morita H, Takada N, Yamamoto Y, Isomura Y, Suwa T, Takeda T, White PC, Kaku K. HSD11B2 CA-repeat and sodium balance. Hypertens Res. 2013;36:614-619. IF 2.936

16) Usui T, Kajita K, Kajita T, Mori I, Hanamoto T, Ikeda T, Okada H, Taguchi K, Kitada Y, Morita H, Sasaki T, Kitamura T, Sato T, Kojima I, Ishizuka T. Elevated mitochondrial biogenesis in skeletal muscle is associated with testosterone-induced body weight loss in male mice. FEBS Lett. 2014;588:1935-1941. IF 3.341

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1） 研究代表者：森田浩之，研究分担者：石塚達夫，梶田和男，森　一郎；科学研究費補助金基盤研究(C)：メタボリックシンドローム患者の行動変容－携帯電話 EMA の効果－；平成 24 年度：1,430 千円
2） 研究代表者：梶田和男，研究分担者：石塚達夫，森　一郎，梶田淑子；群馬大学生体調節研究所内分泌・代謝学共同研究拠点共同研究：成熟脂肪細胞の増殖因子としての、S1P の意義に関する検討；平成 24 年度；350 千円
3） 研究代表者：森　一郎，研究分担者：石塚達夫，梶田和男，梶田淑子；群馬大学生体調節研究所内分泌・代謝学共同研究拠点共同研究：成熟脂肪細胞の増殖因子としての、S1P の意義に関する検討；平成 25 年度；350 千円
4） 研究代表者：梶田和男；研究科長・医学部長裁量経費による研究費：新たな脂肪細胞分化にモデルに基づくインスリン抵抗性発現の機序の解明；平成 26 年度；850 千円

2）受託研究

なし

3）共同研究

1） 石塚達夫，森田浩之，梶田和男，池田貴英：在宅血圧・心電図の長期データとイベント発症との関連；平成 24 年度；1,200 千円：イセット(株)
2） 石塚達夫，森田浩之，梶田和男，池田貴英：在宅血圧・心電図の長期データとイベント発症との関連；平成 25 年度；1,200 千円：イセット(株)
3） 石塚達夫，森田浩之，梶田和男，池田貴英：在宅血圧・心電図の長期データとイベント発症との関連；平成 26 年度；1,200 千円：イセット(株)

5. 発明・特許出願状況

1） 発明者：野方文雄，横田康成，河村洋子，森田浩之，宇野嘉弘．発明の名称：血管破裂指標の算出方法および生体動脈評価装置　出願番号：特願 2008-015386　出願日：平成 20 年 1 月 25 日　登録日：平成 25 年 2 月 1 日

6. 学会活動

1）学会役員

石塚達夫：

1） 日本内科学会評議員(～平成 26 年 3 月)
2） 日本内科学会東海支部評議員(～平成 26 年 3 月)
3） 日本内科学会専門医部会東海支部長(～平成 26 年 3 月)
4） 日本内科学会専門医部会役員(～平成 26 年 3 月)
5） 日本糖尿病学会学術評議員(～現在)
6） 日本糖尿病学会「治療の手びき」編集委員長(～現在)
7） 日本糖尿病学会糖尿病用語集編集委員会委員長(～平成 26 年 5 月)
8） 日本糖尿病学会糖尿病対策地域担当委員(～現在)
9） 日本糖尿病学会中部支部専門医認定委員会委員(～現在)
10） 日本糖尿病協会国際委員(～現在)
11） 日本糖尿病療養指導士認定機構認定委員会委員(～現在)
12） 日本糖尿病療養指導士認定機構試験委員会委員(～現在)
13） 日本内分泌学会評議員(～現在)
14） 日本内分泌学会東海支部監事(～現在)
15） 日本内分泌学会用語集策定委員会委員(～現在)
16） 日本病態栄養学会評議員(～現在)
17） 日本遠隔医療学会運営委員(～平成 25 年 5 月)
18） 日本遠隔医療学会雑誌編集委員長(～現在)
19） 日本病院総合診療医学会雑誌編集委員(～現在)
20） 日本病院総合診療医学会理事(～現在)
21） 日本老年医学会代議員(～現在)

22） 岐阜県内科医会副会長(～平成 26 年 3 月)
23） 岐阜県内科医会名誉会長(平成 26 年 4 月～現在)

森田浩之：
1） 日本内科学会東海支部評議員(～現在)
2） 日本糖尿病学会学術評議員(～現在)
3） 日本糖尿病学会専門医認定委員会委員(～現在)
4） 日本内分泌学会評議員(～現在)
5） 日本ステロイドホルモン学会評議員(～現在)
6） 日本病態栄養学会評議員(～現在)
7） 日本遠隔医療学会理事(～現在)
8） 日本遠隔医療学会運営委員(～現在)
9） 日本遠隔医療学会雑誌編集委員(～現在)
10） 日本病院総合診療医学会評議員(～現在)
11） 日本内分泌学会専門医認定部会内科試験小委員会委員(糖尿病領域)(～現在)
12） 岐阜県内科医会評議員(～現在)
13） 日本プライマリ・ケア連合学会代議員(～現在)

梶田和男：
1） 日本内科学会東海支部評議員(～現在)
2） 日本内分泌学会評議員(～現在)
3） 日本病態栄養学会評議員(～現在)
4） 日本病院総合診療医学会評議員(～現在)
5） 日本糖尿病学会学術評議員(～現在)

2）学会開催

石塚達夫：
1） 第 216 回日本内科学会東海地方会併催第 14 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 24 年 2 月, 名古屋)
2） 第 217 回日本内科学会東海地方会併催第 15 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 24 年 6 月, 浜松)
3） 第 218 回日本内科学会東海地方会併催第 16 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 24 年 10 月, 名古屋)
4） 第 6 回日本病院総合診療医学会学術総会(平成 25 年 3 月，岐阜)
5） 第 220 回日本内科学会東海地方会併催第 17 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 25 年 6 月, 名古屋)
6） 第 221 回日本内科学会東海地方会併催第 18 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 25 年 10 月, 岐阜)

3）学術雑誌

石塚達夫：
1） 日本糖尿病学会「治療の手びき」編集委員長(～現在)
2） 日本糖尿病学会糖尿病用語集編集委員会委員長(～現在)
3） 日本遠隔医療学会雑誌編集委員長(～現在)
4） 日本病院総合診療医学会雑誌編集委員(～現在)

森田浩之：
1） 日本遠隔医療学会雑誌；編集委員(～現在)

森　一郎：
1） 日本遠隔医療学会雑誌；編集委員(～平成 24 年 3 月)

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

石塚達夫：

1） 第 216 回日本内科学会東海地方会併催第 14 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 24 年 2 月, 名古屋,「生活習慣病への治療戦略」座長)
2） 第 46 回糖尿病学の進歩(平成 24 年 3 月，盛岡,「糖尿病治療に必要な知識(1)　内分泌疾患と糖尿病」座長)
3） 第 5 回日本病院総合診療医学会学術集会(平成 24 年 9 月，横浜，ランチョンセミナー「プライマリケアでの膝・肩の診方」座長)
4） 9th International Diabetes Federation Western Pacific Region Congress, 4th Scientific Meeting of the Asian Association for the Asian Association for the Study of Diabetes(2012.11, Kyoto, Poster Presentations; Genetics Chair)
5） 第 47 回糖尿病学の進歩(平成 25 年 2 月，四日市,「糖尿病治療に必要な知識　ステロイド糖尿病の治療」演者)
6） 第 6 回日本病院総合診療医学会学術総会(平成 25 年 3 月，岐阜，会長講演「病院総合医の未来へのメッセージ」演者)
7） 第 6 回日本病院総合診療医学会学術総会(平成 25 年 3 月，岐阜，特別講演「イブニングセミナー糖尿病治療のパラダイムシフト　～DPP-4 阻害薬によせる期待～」座長)
8） 第 6 回日本病院総合診療医学会学術総会(平成 25 年 3 月，岐阜，シンポジウム「病院総合診療医の現状と未来」座長)
9） 第 56 回日本糖尿学会年次学術集会(平成 25 年 5 月，熊本，教育講演「糖尿病関連の臨床指標」座長)
10） 第 220 回日本内科学会東海地方会併催第 17 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 25 年 6 月, 名古屋,「腫瘍と内科疾患」座長)
11） 第 7 回日本病院総合診療医学会学術総会(平成 25 年 8 月，広島，リレーレクチャー1・2・3　座長)
12） 第 221 回日本内科学会東海地方会併催第 18 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 25 年 10 月, 岐阜,「炎症性疾患」座長)
13） 第 8 回日本病院総合診療医学会学術総会(平成 26 年 2 月，大阪，ランチョンセミナー「認知症の包括的管理と糖尿病治療」座長)

森田浩之：

1） 9th International Diabetes Federation Western Pacific Region Congress, 4th Scientific Meeting of the Asian Association for the Asian Association for the Study of Diabetes(2012.11, Kyoto, Poster Presentations, Anti-diabetic Therapy - GLP - 1R Agonists I; Chair)
2） 第 6 回日本病院総合診療医学会学術総会(平成 25 年 3 月，岐阜，シンポジウム「不明熱への挑戦」座長)
3） 第 221 回日本内科学会東海地方会併催第 18 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 25 年 10 月, 岐阜,「自己炎症症候群」演者)
4） 第 8 回日本病院総合診療医学会学術総会(平成 26 年 2 月，大阪，ランチョンセミナー「肥満 2 型糖尿病の臨床像～地域での血管合併症予防を目指して～」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

1） 老田実可子：第 222 回日本内科学会東海地方会優秀演題賞(平成 25 年度)
2） 浅野元尋：第 223 回日本内科学会東海地方会優秀演題賞(平成 26 年度)
3） 宇野美香：第 224 回日本内科学会東海地方会優秀演題賞(平成 26 年度)

9. 社会活動

石塚達夫：

1） 岐阜県糖尿病対策推進協議会副会長(～現在)
2） 岐阜県医師会糖尿病対策委員会委員(～現在)
3） 社団法人日本専門医制評価・認定機構研修施設委員会東海・北陸地区責任者(～平成 25 年 10 月)

10. 報告書

1） 主任研究者：酒巻哲夫，分担研究者：辻　正次，岡田宏基，森田浩之，柏木賢治，郡　隆之，斎藤勇一郎：厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)　遠隔医療技術活用に関する諸

外国と我が国の実態の比較調査研究(H22－医療-指定-043)平成 22 年度－23 年度総合報告書(平成 24 年 3 月)

2) 酒巻哲夫，岡田宏基，森田浩之，郡　隆之，斎藤勇一郎，石塚達夫，辻　正次，小笠原文雄，太田隆正：厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)　在宅医療での ICT 及び遠隔診療活用に関する調査研究(H24－医療－指定－048)平成 24 年度総括研究報告書(平成 25 年 3 月)

3) 酒巻哲夫，本多正幸，中島直樹，岡田宏基，石塚達夫，森田浩之，辻　正次，吉田晃敏，斎藤勇一郎，大熊由紀子，郡　隆之，煎本正博，土橋康成，小笠原敏浩，小笠原文雄，太田隆正，松井英男：厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業) 遠隔医療の更なる普及・拡大方策の研究(H25－医療－指定－009)平成 25 年度総括研究報告書(平成 26 年 3 月)

11. 報道

1) 石塚達夫：第 311 回医科研究会報告(4.7, 岐阜会館)リウマチ診療の新たな展開：岐阜県保険医新聞, 412(2012 年 6 月 10 日)

2) 石塚達夫：患者の診断テーマ　大学院教授が講演　岐阜で「清談会」　患者の診断テーマ：中日新聞(岐阜県版 14 面)(2012 年 6 月 18 日)

3) 石塚達夫：先生こんにちは～：KNG 385(2012 年 8 月 20 日)

12. 自己評価

評価

2014 年 3 月で総合診療部開設 15 年となり，総合病態内科学分野となってからでも 11 年となる。医局員も少しずつ増え，総合内科として特色のある基礎研究（脂肪細胞関連），臨床研究（不明熱，糖尿病，膠原病関連）などを行っている。国際学会，国内学会で多数発表し，大学院生の学位論文もほぼ毎年だしている。しかし，外部資金の獲得や研究などの報道はまだ少ない。

現状の問題点及びその対応策

医局員は少しずつ増えているものの，研究立案，研究費申請，データ収集・解析，論文記載など，研究に費やす時間がかなり不足しているのが現状である。研究や論文作成する医局員を増やすために，学生により実践的に病棟外来実習を行い，研修医の指導にも力をいれ，総合内科の魅力を伝えていきたいと考えている。地域医療についての学会発表や論文作成を行い，社会的な認知度をあげたい。

今後の展望

総合内科では高い診断能力を持ち，一人の患者の複数の疾患に同時に対応ができるスキルを持った総合内科医の養成に全力を尽くしたい。ひとつには，総合内科専門医であり，特定の臓器のみにとらわれずに総合的に内科疾患を診療できる医師を目指します。その後，他のサブスペシャリティ取得のためのキャリアを積み，内科の総合的診療を実践します。二つ目は，新専門医制度による新しい専門医として総合診療専門医ができるため，当科でも日本プライマリ・ケア連合学会認定の家庭医療後期研修プログラム（ver.2.0）を開始し，専門医育成に努めていきます。研究では，これまでの基礎研究にとどまらず，免疫分野などの新たな分野の研究や，臨床研究でも当分野で多くなっている自己免疫疾患の研究を行っていきたい。

（3）臨床薬剤学分野

1. 研究の概要

臨床薬剤学分野における研究項目は，1）医薬品等の定量法の確立に関する研究，2）薬物体内動態の解析に基づく医薬品適正使用推進に関する研究，3）医薬品の新規剤型の開発とその臨床応用に関する研究，4）医療情報システムを活用した医療安全確保に関する研究，5）抗がん剤による副作用対策の確立に関する研究，6）既存の医薬品から新規の作用を発見し，医薬品開発に繋げる drug re-profiling 研究などである。医薬品等の定量に関する研究では，高速液体クロマトグラフィー（HPLC）と蛍光検出器，電気化学検出器，紫外吸光光度計，エレクトロスプレー・タンデムマススペクトロメトリーやガスクロマトグラフィーなどの測定機器を駆使することにより，アセトアミノフェンやベンゾジアゼピンなどの中毒患者での定性ならびに血中濃度測定のみならず，生体内スフィンゴリン脂質の定量に活用している。また，薬物体内動態の解析に基づく医薬品適正使用推進に関する研究では，抗 MRSA 薬のバンコマイシンやテイコプラニンの初期投与設計に関する研究，救急領域における重症患者での腎機能の指標としてシスタチン C を用いた糸球体ろ過量の推測式から抗菌薬の TDM（投与量や投与法の決定）の確立などの研究を行っている。新規剤型の開発に関する研究では，岐阜県内の企業ツキオカフィルム製薬株式会社との共同研究で制吐剤のデキサメタゾンやプロクロルペラジンを含む超薄型口腔内速溶解フィルム製剤を開発し，これをがん化学療法時における悪心・嘔吐予防薬として適用するための基礎ならびに臨床研究を進めている。一方，医療情報システムを活用した医療安全確保に関する研究では，コンピュータを内蔵した抗がん剤注射薬の混合調製のための安全キャビネットを世界で初めて開発し，抗がん剤の取り間違いや投与量間違いによる医療過誤の防止に役立てている。また，抗がん剤による副作用対策に関する研究では，悪心や嘔吐，末梢神経障害，皮膚障害，腎障害，口内などの予防に有効な薬剤の探索と評価を行っており，特に，放射線療法や大量の抗がん剤治療による口内炎に対して亜鉛含有化合物であるポラプレジンクが優れた予防効果を発揮することを見い出し，これについては新規剤型の開発に関する研究としてトローチ剤などの口腔内に適用できる剤型の開発に取り組み,さらには drug re-profiling 研究としても取り組んでいる。

2. 名簿

教授：　伊藤善規　　Yoshinori Itoh

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1）伊藤善規，岡安伸二(分担執筆). モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい病院実務実習テキスト第2版，東京：じほう；2012 年.
2）伊藤善規(分担執筆). 2012 年版 実習に行く前の覚える医薬品集－服薬指導に役立つ－，東京：廣川書店；2012 年.
3）飯原大稔，石原正志，伊藤善規(分担執筆). 大石了三，池末裕明，伊藤善規編集. がん化学療法ワークシート第 4 版，じほう；2012 年.
4）伊藤善規，飯原大稔(分担執筆). 石岡千加史，井上忠夫編集. エビデンスに基づいたがん薬物療法エキスパートマニュアル(第 1 版)，総合医学社；2012 年.
5）飯原大稔(分担執筆). 青山　剛，東　加奈子，川上和宣，宮田広樹編集. がん化学療法レジメン管理マニュアル(第 1 版)，医学書院；2012 年.
6）飯原大稔. 標準制吐対策でコントロール不良も非定型抗精神病薬が奏功した症例：月刊薬事，じほう；2012 年.
7）高橋孝夫，吉田和弘，飯原大稔，高橋　繭. 消化器がん化学療法主要レジメン理解＆看護ポイント FOLFIRI±BV および FOLFOX±BV：消化器外科 NURSING，MC メディカ出版；2012.
8）伊藤善規，安田浩二(分担執筆). 実習に行く前の覚える医薬品集－服薬指導に役立つ－2013 年版，廣川書店.
9）飯原大稔，伊藤善規. プロトコルに基づく薬物治療管理の実践例　がん患者：薬局，南山堂；2014 年；65 巻：2227－2235
10）伊藤善規，安田浩二(分担執筆). 実習に行く前の覚える医薬品集－服薬指導に役立つ－2014 年版，廣川書店.
11）高橋孝夫，松橋延壽，吉田和弘，飯原大稔，藤井宏典，伊藤善規，高橋　繭，安藤真由美. 外来化学療法におけるチーム医療-大腸癌治療を中心に-：消化器外科，へるす出版；2014 年；37 巻：305－313.
12）丹羽　隆，伊藤善規(分担執筆). 学ぶ，取り組む，実践する! AST(抗菌薬適正使用支援チーム，東京：医薬ジャーナル社；2014 年：119－126,
13）岡安伸二，小森善文，伊藤善規(分担執筆). 抗がん薬調製業務／散薬調剤業務におけるバーコードの活用：月刊薬事 2014 年 9 月臨時増刊号　医療用医薬品のバーコード活用マニュアル，じほう；2014 年：73－77.

著書（欧文）
なし

総説（和文）
1） 伊藤善規．業務に基づく研究の推進による薬剤師の責任と権限の拡大を，ぎふ病薬　2012 年；54 巻：3－11.
2） 高橋孝夫，吉田和弘，飯原大稔，伊藤善規．大腸癌に対するチーム医療で行う外来化学療法－術後補助化学療法を中心に－，外来癌化学療法　2013 年；4 巻：31－37.
3） 丹羽　隆．抗菌薬適正使用推進プログラム(Antimicrobial Stewardship)の完全実施体制の確立とアウトカム評価，医療薬学　2013 年；39 巻：125－133.
4） 岡安伸二．くすりの効果における「困った」を解決　ビグアナイド薬、チアゾリジン薬、DPP-4 阻害薬，糖尿病ケア　2013 年；6 巻：534－547.
5） 岡安伸二，堀　聡納，北市清幸，諏訪哲也，堀川幸男，山本眞由美，武田　純，伊藤善規．メトホルミン塩酸塩による下痢発現のリスク要因の解析と下痢予防のための対策立案，医薬ジャーナル　2013 年；49 巻：1533－1540.
6） 丹羽　隆, 伊藤善規. 特集 Infection Control Tips「抗菌薬の適正使用」Tips－①Antimicrobial stewardship の考え方，薬局　2013 年；64 巻：2495－2499.
7） 安田　満，丹羽　隆．特集 2　切り取って使える保存版泌尿器科薬剤ノート①排尿障害・結石・感染の薬 4．性感染症に用いられる薬，泌尿器ケア　2013 年；18 巻：968－972.
8） 飯原大稔，鈴木昭夫，伊藤善規．1．抗がん剤投与時の制吐対策，医薬ジャーナル　2014 年；50 巻：73－80.
9） 山田摩耶，石原正志，飯原大稔，伊藤善規．外来化学療法室における薬剤師の関わりと取り組み，医薬ジャーナル　2014 年；50 巻：1436－1441.
10） 丹羽　隆，伊藤善規．病院薬剤師と感染制御，特集：チーム医療における病院薬剤師の役割，病院　2014 年；73 巻：770－773.

総説（欧文）
なし

原著（和文）
1） 丹羽　隆，篠田康孝，鈴木昭夫，大森智史，太田浩敏，深尾亜由美，安田　満，北市清幸，松浦克彦，杉山　正，村上啓雄，伊藤善規．Infection Control Team による全入院患者を対象とした注射用抗菌薬適正使用推進実施体制の確立とアウトカム評価，医療薬学　2012 年；38 巻：273－281.
2） 村上啓雄，深尾亜由美，丹羽　隆，太田浩敏，伊藤善規．大学病院での取り組み．適切なチーム医療活動と各職種メンバーの役割－岐阜大学医学部附属病院 ICT における抗菌薬適正使用の取り組み－Antimicrobial Stewardship，月刊地域医学　2012 年；26 巻：316－321.
3） 吉見千明，山田摩耶，藤井宏典，西垣美奈子，飯原大稔，北市清幸，高橋　繭，倉橋小代子，高橋孝夫，吉田和弘，伊藤善規．外来がん化学療法室でのチーム医療における薬剤師の役割：診察前患者面談の有用性評価，癌と化学療法　2013 年；40 巻：349－354.
4） 小川裕美，安田浩二，兼松哲史，高井　満，伊藤善規．フェンタニルパッチの採用と医療過誤対策についての調査，日本病院薬剤師会雑誌　2013 年；49 巻：971－974.
5） 林　寛子，丹羽　隆，竹市朱里，今西義紀，外海友規，岡安伸二，北市清幸，安田公夫，村上啓雄，伊藤善規．夜勤時におけるバンコマイシン初期投与設計体制の確立とその成果，医療薬学　2014 年；40 巻：85－93.
6） 川上和宜，吉村知哲，日置三紀，組橋由記，林　稔展，飯原大稔，黒田純子，緒方憲太郎，米村雅人，岩本卓也，松尾宏一．がん診療連携拠点病院を対象とした外来化学療法における薬剤師の業務展開に関する調査結果，日本病院薬剤師会雑誌　2014 年；50 巻：305－311.
7） 丹羽　隆，外海友規，鈴木景子，渡邉珠代，土屋麻由美，太田浩敏，村上啓雄．Defined daily dose (DDD) と Days of therapy (DOT)を用いた抗菌薬使用量の評価，日本環境感染学会誌　2014 年；29 巻：333－339.
8） 石原正志，池末裕明，千堂年昭，荒木博陽，伊藤善規．オピオイド鎮痛薬による消化管系副作用対策に関する多施設共同研究(J-RIGID study)のサブ解析-各県における緩下剤処方状況と評価，日本病院薬剤師会雑誌　2014 年；50 巻：1117－1121.

原著（欧文）
1） Ishihara M, Ikesue H, Matsunaga H, Suemaru K, Kitaichi K, Suetsugu K, Oishi R, Sendo T, Araki H, Itoh Y. The Japanese Study Group for the Relief of Opioid-Induced Gastrointestinal Dysfunction (J-RIGID). A multi-institutional study analyzing effect of prophylactic medication for prevention of opioid-induced gastrointestinal dysfunction. Clin J Pain. 2012;28:373-381.　IF 2.703
2） Nishigaki M, Kawahara K, Nawa M, Futamura M, Nishimura M, Matsuura K, Kitaichi K, Kawaguchi Y, Tsukioka T, Yoshida K, Itoh Y. Development of fast dissolving oral film containing dexamethasone as an antiemetic medication clinical usefulness. Int J Pharmac. 2012;424:12-17.　IF 3.785
3） Okayasu S, Kitaichi K, Hori A, Suwa T, Horikawa Y, Yamamoto M, Takeda J, Itoh Y. The evaluation of risk factors associated with adverse drug reactions by metformin in type 2 diabetes mellitus. Biol

Pharm Bull. 2012;36:933-937. IF 1.778

4) Iihara H, Matsuura K, Ishihara M, Takahashi T, Kawaguchi Y, Yoshida K, Itoh Y. Pharmacists contribute to the improved efficiency of medical practices in the outpatient cancer chemotherapy clinic. J Eval Clin Pract. 2012;18:753-760. IF 1.580

5) Niwa T, Shinoda Y, Suzuki A, Ohmori T, Yasuda M, Ohta H, Fukao A, Kitaichi K, Matsuura K, Sugiyama T, Murakami N, Itoh Y. Outcome measurement of extensive implementation of antimicrobial stewardship in patients receiving intravenous antibiotics in a Japanese university hospital. Int J Clin Pract. 2012;66:999-1008. IF 2.538

6) Endo J, Iihara H, Yamada M, Yanase K, Kamiya F, Ito F, Funaguchi N, Ohno Y, Minatoguchi S, Itoh Y. A randomized controlled noninferiority study comparing antiemetic effect between intravenous granisetron and oral azasetron based on estimated 5-HT_3 receptor occupancy. Anticancer Res. 2012;32:3939-3948. IF 1.872

7) Aoki S, Iihara H, Nishigaki M, Imanishi Y, Yamauchi K, Ishihara M, Kitaichi K, Itoh Y. Difference in the emetic control among highly emetogenic chemotherapy regimens: implementation for appropriate use of aprepitant. Mol Clin Oncol. 2013;1:41-46.

8) Okamoto R, Itoh Y, Murata U, Kobayashi D, Hosoi M, Mine K. Reduction of group II metabotropic glutamate receptors during development of benzodiazepine dependence. Pharmacology. 2013;91:145-152. IF 1.581

9) Fujii H, Iihara H, Ishihara M, Takahashi T, Yoshida K, Itoh Y. Improvement of adherence to guidelines for antiemetic medication enhances emetic control in patients with colorectal cancer receiving chemotherapy of moderate emetic risk. Anticancer Res. 2013;33:5549-5556. IF 1.872

10) Niwa T, Watanabe T, Suzuki A, Ohmori T, Tsuchiya M, Suzuki T, Ohta H, Murakami N, Itoh Y. Reduction of linezolid-associated thrombocytopenia by the dose adjustment based on the risk factors such as basal platelet count and body weight. Diagn Micr Infec Dis. 2014;79:93-97. IF 2.568

11) Hayashi H, Kobayashi R, Suzuki A, Ishihara M, Nakamura N, Kitagawa J, Kanemura N, Kasahara S, Kitaichi K, Hara T, Tsurumi H, Moriwaki H, Itoh Y. Polaprezinc prevents oral mucositis in patients treated with high-dose chemotherapy followed by hematopoietic stem cell transplantation. Anticancer Res. 2014;34:7271-7277. IF 1.872

12) Suzuki A, Kobayashi R, Okayasu S, Kuze B, Aoki M, Mizuta K, Itoh Y. Pharmacotherapy for adverse events reduces the length of hospital stay in patients admitted to otolaryngology ward: a single arm intervention study. PLoS One 2014;9:e115879. doi: 10.1371/journal.pone.0115879. eCollection 2014. IF 3.534

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1) 研究代表者：伊藤善規；科学研究補助金基盤研究(C)（課題番号：25460208）：がん化学療法における口内炎の予防薬としてのポラプレジンク製剤の開発に関する研究；平成 25－27 年度；4,680 千円（2,730：1,170：780 千円）
2) 研究代表者：石原正志；科学研究費奨励研究(平成 25 年度：25929003)：造血幹細胞移植前処置による口内炎に対するポラプレジンクの予防効果に関する研究；500 千円
3) 研究代表者：今西義紀；科学研究費奨励研究(平成 25 年度：25929005)：シスプラチンによる腎障害マーカーとしてのシスタチン C の有用性の検討；500 千円
4) 研究代表者：鈴木昭夫；科学研究費奨励研究(平成 25 年度：25929013)：シスプラチン投与時の腎障害の発現に及ぼす要因の解析とその予防対策の確立；500 千円
5) 研究代表者：石原正志；科学研究費奨励研究(平成 26 年度：26929004)：抗がん剤による悪心・食欲不振に対する抗精神病薬の有効性に関する研究；500 千円
6) 研究代表者：飯原大稔；科学研究費奨励研究(平成 26 年度：26929001)：化学放射線療法による食道炎に対するポラプレジンクの予防効果に関する研究；500 千円
7) 研究代表者：丹羽　隆；科学研究費奨励研究(平成 26 年度：26929022)：感染対策チームによる抗 MRSA 薬の使用に対する介入効果の検討；500 千円

2）受託研究

1) 伊藤善規：薬剤含有フィルム製剤の開発に関する研究；平成 24 年度；800 千円：ツキオカ(株)
2) 伊藤善規：薬剤含有フィルム製剤の開発に関する研究；平成 25 年度；800 千円：ツキオカ(株)

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

伊藤善規：

1） 日本薬理学会評議員(～現在)
2） 日本医療薬学会評議員(～現在)
3） 日本病院薬剤師会理事(～平成 24 年)
4） 日本薬学会東海支部会幹事(～現在)
5） 日本緩和医療薬学会評議員(平成 24 年～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

伊藤善規：

1） 日本薬学会第 132 年会(平成 24 年 3 月，札幌，シンポジウム「口腔内速溶解フィルムに潜在する製剤開発のシーズ．[次世代型経口製剤に求められる臨床機能性]」シンポジスト)
2） 実践的医療薬学教育開発シンポジウム(平成 24 年 5 月，千葉，招待講演「臨床現場で遭遇するテーマをどのように研究として取り上げ、エビデンスとしていくか」演者)
3） 第 17 回日本緩和医療学会学術大会(平成 24 年 6 月，神戸，イブニングセミナー「抗がん剤およびオピオイド鎮痛薬使用時の副作用対策～制吐対策・便秘対策を中心に～」演者)
4） 医療薬学フォーラム 2012. 第 20 回クリニカルファーマシーシンポジウム(平成 24 年 7 月，福岡，シンポジウム「医療連携による薬学的エビデンス構築のための臨床研究：医療現場での臨床研究の進め方ー薬学的エビデンス構築に向けてー」演者)
5） 岡山県病院薬剤師会北地区学術講演会(平成 25 年 1 月，津山，特別講演「がん化学療法に薬剤師は如何に関わるべきか？～最近の悩み～」演者)
6） 医薬品の副作用対策研究会(平成 25 年 3 月，福岡，招待講演「オピオイド鎮痛薬による消化管症状の予防対策に関する多施設共同研究(J-RIGID study)」演者)
7） 第 40 回三重県病院薬剤師会生涯研修講演会(平成 25 年 3 月，津，特別講演「抗がん剤治療の薬剤師外来」演者)
8） 第 18 回長崎クリニカルファーマシー研究会(平成 25 年 3 月，長崎，特別講演「今後の病院薬剤師業務～薬剤業務に基づく研究のすすめ～」演者)
9） 第 40 回日本毒性学会学術年会(平成 25 年 6 月，千葉，シンポジウム「抗がん剤の副作用対策の進歩：抗がん剤による悪心・嘔吐」演者)
10） 第 35 回秋田県臨床薬学研究会(平成 25 年 7 月，秋田，特別講演「薬剤業務に基づく研究のアウトカム評価の重要性」演者)
11） 滋賀県病院薬剤師会総会講演会（平成 26 年 4 月，守山，特別講演「病院薬剤業務のアウトプット～医療の質と経営への貢献～」演者）
12） 日本薬剤師会主催平成 26 年度病院診療所薬剤師研修会（平成 26 年 6 月，福岡，教育講演「病棟薬剤業務のアウトカム」演者)
13） 日本薬剤師会主催平成 26 年度病院診療所薬剤師研修会（平成 26 年 7 月，広島，教育講演「病棟薬剤業務のアウトカム」演者)
14） 日本薬剤師会主催平成 26 年度病院診療所薬剤師研修会（平成 26 年 10 月，東京，教育講演「病棟薬剤業務のアウトカム」演者)
15） 日本薬剤師会主催平成 26 年度病院診療所薬剤師研修会（平成 26 年 11 月，大阪，教育講演「病棟薬剤業務のアウトカム」演者)
16） 病院・大学・薬局薬剤師のための臨床研究セミナー2014（平成 26 年 11 月，東京，教育講演「病棟薬剤業務の展開とアウトカム評価に関する多施設共同研究実施の提案」演者)

17） 第 13 回香川県癌治療薬剤業務研究会（平成 26 年 11 月，高松，特別講演「がん化学療法における薬剤業務について」演者）

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

伊藤善規：

1） 岐阜県病院薬剤師会会長(～現在)
2） 岐阜県薬剤師会副会長(～現在)
3） 岐阜県糖尿病対策推進委員(～現在)
4） 日本病院薬剤師会理事・薬剤業務委員(～現在)

10. 報告書

なし

11. 報道

1）「薬薬連携から医薬薬連携へ」クレデンシャル 2012 年；4 月号 43 巻：12-13
2）「医療の扉」取材．外来化学療法におけるチーム医療(岐阜大学医学部附属病院)：BS 日テレ(平成 24 年 4 月 22 日)
3） 対談：「受容体占有理論に基づく制吐薬の選択・評価」．メディカルレビュー社(平成 24 年 4 月 3 日)
4）「専門知識と経験を持った薬剤師が積極的に処方提案し、チーム医療に貢献」Farma Chugai 2012 年；9 巻：6-9
5） 対談：「これからの病棟業務はいかにあるべきか」：ファーマスコープ．田辺三菱（平成 25 年）
6）「ムダの“見える化”で 医療の質を上げろ」クローズアップ現代．No. 3410 (平成 25 年 10 月 2 日)
7） 論壇「病棟薬剤業務にどう取り組むべきか」：薬事新報．No. 2818(平成 26 年 1 月 1 日号)
8）「つなごう医療」岐阜大病院の外来抗がん剤治療：薬剤師が「診察前面談」：中日新聞(平成 26 年 3 月 25 日)
9） Big data の活用「病棟薬剤業務、感染対策」：日経 BP 社(平成 26 年 5 月 12 日)
10）「新薬の上市相次ぐ抗がん剤：副作用対策は治療の一環」：医薬ジャーナル 2014 年；50 巻：106-165
11） 再生医療を題材にした小説執筆およびドラマ化するための病院薬剤師業務に関する情報収集のための取材，瀬名秀明(SF 作家)，篠原　圭(NHK 制作局・ドラマ番組部チーフプロデューサー)，砂原謙亮(NHK 出版編集部)(平成 26 年 5 月 20 日)
12）「病棟における薬剤師業務のアウトカム評価」：キッセイ薬品 KISSEI KUR(平成 26 年 11 月 7 日)
13） 岐阜大学病院外来化学療法室における患者面談、お薬手帳を介した病院薬剤師と開局薬剤師の連携について：じほう社(平成 26 年 11 月 13 日)

12. 自己評価

評価

研究については病院薬剤部職員（技術職員）が主体となって取り組んでいる。原著論文数は多くはないが，薬剤業務において医療の質向上への貢献を目指して取り組んだものであり，ほとんどが臨床研究である。競争的研究資金の確保については，最近では科学研究費の基盤研究および技術職員の奨励研究が継続的に確保できている状況である。以上のことから，研究面では一定の成果を上げられたと評価する。

現状の問題点及びその対応策

教授以外に教員がいないため，研究ならびに教育については必ずしも十分とは言えない。しかし，薬剤師 5 名を医学部非常勤講師兼任とし，医学生教育にも取り組んでいる。

今後の展望

研究面では臨床研究を主体に推進することを考えており，他部門(診療科，岐阜薬科大学，他大学)との連携を強化しており，今後は業績に繋げる予定である。医学生教育への関与に比重を置く予定である。

（4）医療経済学分野

1. 研究の概要

行動科学及び経済学等社会科学の手法に基づく医療評価研究や患者行動，医師・患者関係に関する研究をおこなっている。

1)患者の行動医学研究

がん患者の治療や薬剤に対する患者の意思決定やそれに及ぼす要因の分析を行っている。

2)医療における生産性及び効率性に関する研究

医療における生産性指標及び効率性指標の算出を行い，その影響要因を明らかにするとともに，医療のパフォーマンス指標への応用を研究している。特に，急性期病院に求められる在院日数の短縮化と医療における質を反映できるパフォーマンス指標の開発を目標としている。

3)HPV ワクチン，遺伝子診断の需要分析研究

HPV ワクチン，各種遺伝子診断について，その需要に影響する要因について研究している。

2. 名簿

教授：　永田知里　Chisato Nagata

非常勤講師：　高塚直能　Naoyoshi Takatsuka

3. 研究成果の発表

著書（和文）

なし

著書（欧文）

なし

総説（和文）

なし

総説（欧文）

なし

原著（和文）

なし

原著（欧文）

1) Sawada A, Yamamoto T, Takatsuka N. Randomized crossover study of latanoprost and travoprost in eyes with open-angle glaucoma. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2012;250:123-129. IF 2.333
2) Matsumoto K, Maeda H, Oki A, Takatsuka N, Yasugi T, Furuta R, Hirata R, Mitsuhashi A, Fujii T, Hirai Y, Iwasaka T, Yaegashi N, Watanabe Y, Nagai Y, Kitagawa T, Yoshikawa H; for Japan HPV And Cervical Cancer (JHACC) Study Group. HLA class II DRB1*1302 allele protects against progression to cervical intraepithelial neoplasia grade 3: a multicenter prospective cohort study. Int J Gynecol Cancer. 2012;22:471-478. IF 1.949
3) Matsumoto K, Hirai Y, Furuta R, Takatsuka N, Oki A, Yasugi T, Maeda H, Mitsuhashi A, Fujii T, Kawana K, Iwasaka T, Yaegashi N, Watanabe Y, Nagai Y, Kitagawa T, Yoshikawa H; Japan HPV and Cervical Cancer (JHACC) Study Group. Subsequent risks for cervical precancer and cancer in women with low-grade squamous intraepithelial lesions unconfirmed by colposcopy-directed biopsy: results from a multicenter, prospective, cohort study. Int J Clin Oncol. 2012;17:233-239. IF 2.170
4) Ochi H, Matsumoto K, Kondo K, Oki A, Furuta R, Hirai Y, Yasugi T, Takatsuka N, Maeda H, Mitsuhashi A, Fujii T, Kawana K, Iwasaka T, Yaegashi N, Watanabe Y, Nagai Y, Kitagawa T, Kanda T, Yoshikawa H; Japan HPV And Cervical Cancer (JHACC) Study Group. Do neutralizing antibody responses generated by human papillomavirus infections favor a better outcome of low-grade cervical lesions? J Med Virol. 2012;84:1128-1134. IF 2.217
5) Fujii T, Takatsuka N, Nagata C, Matsumoto K, Oki A, Furuta R, Maeda H, Yasugi T, Kawana K, Mitsuhashi A, Hirai Y, Iwasaka T, Yaegashi N, Watanabe Y, Nagai Y, Kitagawa T, Yoshikawa H. Association between carotenoids and outcome of cervical intraepithelial neoplasia: a prospective cohort study. Int J Clin Oncol. 2013;18:1091-1101. IF 2.170

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1） 研究代表者：高塚直能，研究分担者：長瀬　清；科学研究費補助金基盤研究(C)：乳がん手術待機期間からみた医療資源適正配分に関する研究；平成 22－24 年度；3,500 千円(1,500：500：1,500 千円)

2） 研究代表者：井上真奈美，研究分担者：永田知里；国立がん研究センター研究開発費：わが国において優先すべき予防介入試験のあり方やその実現に必要な体制整備に関する提言；平成 25－26 年度；2,400 千円(1,200：1,200 千円)

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

永田知里：

疫学・予防医学分野参照

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

なし

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

高塚直能：

1） 岐阜県保険者協議会(医療費分析相談)(～平成 25 年度)

2） 岐阜県国保連合会生活習慣病予防対策検討委員会アドバイザー(～平成 25 年度)

3） 岐阜県後期高齢者医療広域連合運営懇話会委員(～現在)

10. 報告書

1） 研究代表者：井上真奈美，研究分担者：永田知里；国立がん研究センター研究開発費：わが国において優先すべき予防介入試験のあり方やその実現に必要な体制整備に関する提言(平成 25－26 年度)

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

論文数が少ない。

現状の問題点及びその対応策

論文化を迅速に進める。共同研究の形も模索する。

今後の展望

　小規模であるが応用性の高い研究や方法論に関わる研究などを行い，独自色ある成果を求めていく。薬剤疫学の分野も包括する。

（5）救急・災害医学分野

1. 研究の概要

外的侵襲制御について基礎研究，臨床研究を通じて，国際的に通用する自立した研究者を育成することを目的とする。具体的なテーマとしては，外傷，ショック，(含む敗血症)，高気圧酸素治療，救急搬送，救急医療情報などについての臨床専門分野における診断，治療に関するものや，救急医学領域における外傷，敗血症などの外的侵襲のモデルを作成して基礎的な知見を得る。

2. 名簿

教授：	小倉真治	Shinji Ogura
准教授：	豊田　泉	Izumi Toyoda
講師：	牛越博昭	Hiroaki Ushikoshi
講師：	熊田恵介	Keisuke Kumada
助教：	吉田省造	Shouzo Yoshida
助教：	中野通代	Michiyo Nakano
助教：	吉田隆浩	Takahiro Yoshida
助教：	副田明男	Akio Soeda
助教：	長屋聡一郎	Soichiro Nagaya
助教：	岡田英志	Hideshi Okada
助教：	加藤久晶	Hisaaki Katou
助教：	名知　祥	Sho Nachi
助教：	橋本孝治	Kouji Hashimoto
助教：	神田倫秀	Norihide Kanda
助教：	中野志保	Shiho Nakano
助教：	山田法顕	Noriaki Yamada
助教：	川口智則	Tomonori Kawaguchi
医員：	華井竜徳	Tatsunori Hanai
医員：	田中　卓	Taku Tanaka
医員：	館　正仁	Masahito Tachi
医員：	東　賢志	Kenshi Higashi
医員：	池庄司遥	Haruka Ikeshouji
医員：	鈴木浩大	Koudai Suzuki
医員：	吉田明弘	Akihiro Yosida
医員：	小牧久晃	Hisaaki Komaki
医員：	坂林雄飛	Yuuhi Sakabayashi
医員：	北川雄一郎	Yuichirou Kitagawa
医員：	安田　立	Ryu Yasuda
医員：	福田哲也	Tetsuya Hukuta
医員：	水野洋佑	Yousuke Mizuno

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1） 土井智章．マネジメントの視点から災害対応を考える：病院，東京：医学書院；2012 年：73－83.
2） 小倉真治．損傷：救急救命士標準テキスト，東京：へるす出版；2012 年：163－170.
3） 土井智章．バイオテロ被災者の急性期ケアの指針：救急・集中治療　最新ガイドライン 2012-13，東京：総合医学社；2012 年：348－351.
4） 神原　淳，山田和憲，名知　祥，豊田　泉，小倉真治．脳卒中に疑似した食中毒傷病者の搬送事例：プレホスピタル・ケア東京，東京法令出版；2012 年：50－51.
5） 熊田恵介，小倉真治．救急医療と IT：救急・集中治療医学レビュー2012-13，東京：総合医学社；2012 年：32－35.
6） 小倉真治，豊田　泉，熊田恵介，土井智章．平時の救急医療から災害復興まで使える情報システム「GEMITS」(Global Emergency medical supporting Intelligence Transport System)：災害医療と IT，東京：ライフメディコム；2012 年：81－85.
7） 吉田省造，斎藤正樹．2012 増強版呼吸療法認定士：たしかめドリル，名古屋：日総研出版；2012 年：1－196.

8) 土井智章. 三環系抗うつ薬中毒の治療指針：救急医学, 東京：へるす出版；2012 年：1440－1441.
9) 吉田省造, 小倉真治. 早期診断の重要性と、重症度判定 -APACHE Ⅱ score, MODS score など－：sepsis/SIRS －いまを生かす！最新の病態把握に基づく適切な診療へ, 東京：総合医学社；2012 年：1081－1087.
10) 吉田隆浩, 小倉真治. 救急疾患アトラス, 大阪：メディカ出版；2013 年：62－64.
11) 吉田隆浩, 小倉真治. 血液凝固第Ⅶa 因子製剤, 東京：へるす出版；2013 年：580－583.
12) 小倉真治. 血管透過性亢進, 集団災害, トリアージソート, トリアージオフィサー, トリアージポスト, トリアージ用改訂版外傷スコア, 東京：ぱーそん書房；2013 年：6－10.
13) 土井智章, 小倉真治. 災害時における脱水・低栄養回避 -ドクターヘリとトリアージ-, 東京：医歯薬出版株式会社；2013 年：287－291.
14) 詫間隆博, 竹末芳生, 土井智章, 中嶋一彦, 槙村浩一, 宮崎泰可, 望月清文, 山岸由佳, 吉田耕一郎. 8.粘膜カンジダ症(口腔咽頭カンジダ症, 侵襲性カンジダ症の診断・治療ガイドライン食道カンジダ症-, 東京：一般社団法人日本医真菌学会；2013 年：287－291.
15) 熊田恵介, 松丸直樹, 吉田省造, 白井邦博, 豊田 泉, 小倉真治, 福田充宏. 重症救急患者におけるバイタルサイン情報の記録の問題点, 東京：一般社団法人日本医真菌学会；2013 年：287－291.
16) 吉田隆浩. 小児フレイルチェスト：エマージェンシー・ケア, 大阪：メディカ出版；2014 年：68－69.
17) 牛越博昭. 低体温療法適応と実際, 東京：総合医学社；2014 年：180－183.
18) 小倉真治. 救急医療と IT：救急・集中治療医学レビュー2014-2015, 東京：総合医学社；2014 年：35－41.
19) 土井智章, 小倉真治. バイオテロ被災者の急性期ケアの指針：救急・集中治療医学レビュー2014-2015, 東京：総合医学社；2014 年：387－389.
20) 土井智章. 危機管理ブック, 東京：へるす出版；2014 年.
21) 牛越博昭. 電気ショック(同期・非同期)：救急医学, 東京：へるす出版；2014 年：635－639..
22) 豊田 泉, 有賀 徹, 奥寺 敬, 坂本哲也, 安心院康彦, 堤 晴彦, 本田 満, 奥地一夫, 東原真奈, 北原孝雄, 黒田泰弘, 永山正雄, 梁 成勲, 本郷 悠, 園生雅弘, 角谷彰子, 汐崎 祐, 中村俊介. 12.精神疾患 13.その他の疾患：意識障害の初期治療の標準化 ACEC ガイドブック 2014, 東京：へるす出版；2014 年：117,120,129,131.
23) 吉田隆浩, 小倉真治. 救急疾患アトラス 8.デグロービング損傷に対する局所陰圧閉鎖療法に人口真皮を併用した一例：エマージェンシー・ケア, 大阪：メディカ出版；2014 年：86－88.
24) 吉田隆浩, 小倉真治. 救急疾患アトラス 9 救急疾患アトラス 9.膝窩動脈を損傷するも患肢を温存できた一例：エマージェンシー・ケア, 大阪：メディカ出版；2014 年：32－35.
25) 吉田隆浩, 小倉真治. 救急疾患アトラス 9 救急疾患アトラス 10.スノーボード外傷に伴う腎損傷：エマージェンシー・ケア, 大阪：メディカ出版；2014 年：60－61.
26) 豊田 泉, 橋本孝治, 吉田隆浩, 名知 祥, 山田法顕, 神田倫秀, 小倉真治. ドクターヘリ運用の特別なミッション 山間部での運航：救急医学, 東京：へるす出版；2014 年：1499－1501.
27) 豊田 泉, 山田法顕, 熊田恵介, 小倉真治. 急性出血性脳卒中：救急医学, 東京：へるす出版；2014 年：1375－1377.

著書（欧文）
なし

総説（和文）
1) 山田法顕, 名知 祥, 小倉真治. 高気圧酸素療法における脳保護効果と今後の展望：心臓救急最前線 2013-2014, 東京：The Japan-Prediction of neurological Outcomes in patients Post cardiac arrest (J-POP) registry；2012 年：73－83.

総説（欧文）
なし

原著（和文）
1) 山田法顕. 急性期からの高気圧酸素治療の併用が効果的であった深頸部膿瘍の一例, 日本集中治療医学会雑誌 2012 年；19 巻：65－70.
2) 白井邦博, 吉田省造, 吉田隆浩, 加藤久晶, 名知 祥, 井原 頌, 豊田 泉, 小倉真治. ALI/ARDS 症例に対するグルタミン強化経腸栄養の効果について, 外科と代謝・栄養 2012 年；46 巻：1－8.
3) 加藤久晶, 山田法顕, 中野志保, 吉田省造, 白井邦博, 豊田 泉, 小倉真治. 腹膜炎で発症した化膿性脊椎炎の 1 例, 日本救急医学会雑誌 2012 年；23 巻：163－169.
4) 林 賢治, 杉原博子, 吉田省造, 山田法顕, 土井智章, 名知 祥, 小倉真治. 人工呼吸器管理におけるシミュレーション教育の評価-アンケートを用いた検討, 日本呼吸器療法医学会誌 2012 年；29 巻：70－73.
5) 川井 豪, 伊藤芳毅, 小倉真治, 清水克時. 整形外科 最前線/あなたならどうする？(11), 臨床整形外科 2012 年；47 巻：1099－1102.
6) 北川順一, 吉田省造, 中島靖浩, 白井邦博, 豊田 泉, 小倉真治, 村上哲雄. Acute respiratory distress syndrome(ARDS) 合従した腸チフスの 1 例, 日本救急医学会雑誌 2012 年；23 巻：781－786.
7) 小倉真治. 救急医療の全体最適化システム-GEMITS- Total Optimization in Emergency Medicine -GEMITS-, 機関誌交通工学 2012 年；48 巻：52－59.

8) 小倉真治. 救急医療に対して ICT は何を支援できるか, 新医療　2012 年：39 巻：24－28.
9) 小倉真治. 地域医療とチーム医療, 救急医学　2012 年；36 巻：663－666.
10) 山田法顕, 豊田　泉, 小倉真治. 高気圧酸素療法, 総合医学社　2012 年；24 巻：929－934.
11) 山田法顕, 豊田　泉, 山田実貴人, 玉田佳樹, 山川弘保, 加藤雅康, 熊谷守雄, 吉村紳一, 岩間　亨, 小倉真治. 岐阜県における脳卒中初期診療標準化の取り組み, 日本臨床救急医学会雑誌　2013 年；16 巻：643－648.
12) 豊田　泉, 山田法顕, 小倉真治, 山内圭太, 野村悠一, 船津奈保子, 石黒光紀, 中山則之, 岩間　亨. 橋下部腹側症候群(Millard-Gubler syndrome)を呈した頭部外傷の 1 例, 日本臨床救急医学会雑誌　2014 年；37 巻：32－35.
13) 豊田　泉, 福田哲也, 田中義人, 三宅喬人, 名知　祥, 吉田隆浩, 白井邦博, 小倉真治. 鈍的腹部外傷による単独胆嚢損傷に対して手術治療を行った 1 例, 日本外傷学会雑誌　2014 年；28 巻：282－285.
14) 橋本孝治, 豊田　泉, 熊田恵介, 吉田隆浩, 名知　祥, 小倉真治. 岐阜県ドクターヘリのスポーツ傷病者に対する取り組み, 日本航空医療学会誌　2014 年；15 巻：29－33.
15) 熊田恵介, 村上哲雄, 白井邦博, 豊田　泉, 小倉真治, 福田充宏. 気管切開に関わる安全管理：早期合併症事例の特徴と手術切開と経皮切開の比較を踏まえ, 日本臨床救急医学会雑誌　2014 年；17 巻：743－747.
16) 豊田　泉, 大江直行, 伊藤稔子, 杉原博子, 青木友紀, 岡田弘美, 余語紗代. 神経救急医による院内臓器提供連絡調整員(院内コーディネーター)について, 日本脳神経外科救急学会雑誌　2014 年；19 巻：149－153.

原著（欧文）

1) Shigemori M, Abe T, Aruga T, Ogawa T, Okudera T, Ono J, Onuma T, Katayama Y, Kawai N, Kawamata T, Kohmura E, Sakai T, Sakamoto T, Sasaki T, Sato A, Shiogai T, Shima K, Sugiura K, Takasato Y, Tokutomi T, Tomita H, Toyoda I, Nagano S, Nakamura H, Y Park, Mitsunori M, Miki T, Miyake Y, Murai H, Murakami S, Yamaura A, Yamaki T, Yamada K, Yoshimine T. Guidelines for the Management of Severe Head Injury, 2nd Edition Guidelines from the Guidelines Committee on the Management of Severe Head Injury, the Japan Society of Neurotraumatology. Neurol med chir. 2012;52:1-30.
2) Doi T, Tokuda H, Matsushima-Nishiwaki R, The Cuong N, Kageyama Y, Iida Y, Kondo A, Akamatsu S, Otsuka T, Iida H, Kozawa O, Ogura S. Effect of antithrombin III on glycoprotein Ib/IX/V activation on human platelets: suppression of thromboxane A2 generation. Prostag Leukotr Ess. 2012;87:57-62.　IF 1.984
3) Doi T, Akamatsu S, Kuroyanagi G, Kondo A, Mizutani J, Otsuka T, Tokuda H, Kozawa O, Ogura S. Rac regulates collagen-induced HSP27 phosphorylation via p44/p42 MAP kinase in human platelets. Int J Mol Med. 2013;32:813-818.　IF 1.880
4) Mochizuki K, Sawada A, Suemori S, Kawakami H, Niwa Y, Kondo Y, Ohkusu K, Yamada N, Ogura S, Yaguchi T, Nishimura K, Kishino S. The American Society for Microbiology. Antimicrob Agents Ch. 2013;57:4027-4030.　IF 4.451
5) Cuong NT, Abe C, Binh NH, Hara A, Morita H, Ogura S. Sivelestat improves outcome of crush injury by inhibiting high-mobility group box 1 in rats. Shock. 2013;39:89-95.　IF 2.732
6) Kageyama Y, Doi T, Matsushima-Nishiwaki R, Iida Y, Akamatsu S, Kudo A, Kuroyanagi G, Yamamoto N, Mizutani J, Otsuka T, Tokuda H, Kozawa O, Ogura S. Ivolvement od Rac in thrombozane A2-induced human platelet activation:Regulation of sCD40 lingand release and PDGF-Absecretion. Mol Med Rep. 2014;10:107-112.　IF 1.757

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

なし

2）受託研究

1) 小倉真治：リコモジュリン点滴静注用 12800 特定使用成績調査(産婦に対する調査)；平成 22－24 年度；63 千円：旭化成ファーマ(株)
2) 小倉真治：ジェイスの重症熱傷に対する使用成績調査；平成 22－26 年度；105 千円：ジャパンエンジニアリング(株)
3) 小倉真治：ゾシン静注用 2.25, 4.5 使用成績調査；平成 22－24 年度；105 千円：大正富山医薬品(株)
4) 小倉真治：平成 23 年度「医療・介護等関連分野における規制改革・産業創出実証事業(緊急医療体制の構築に資する車載 IT システムの導入における課題抽出・分析のための調査事業)」；平成 23－24 年度；3,960,449 円：経済産業省
5) 白井邦博：モノづくり技術と IT を活用した高度医療機器の開発の一部「敗血症モニタの開発」；平成 23－24 年度；7,643,113 円：財団法人岐阜県研究開発財団
6) 小倉真治：感染症に伴い発症した汎発性血管内凝固症候群(DIC)患者を対象とした KW－3357 と血漿由来アンチトロビン製剤の非盲検比較試験；平成 23－25 年度；1,852,200 円：協和発酵キリン(株)

7） 小倉真治：ラビット点滴静注バッグ 500mg/20mL 使用成績調査；平成 23－25 年度；105 千円：第一三共株式会社
8） 小倉真治：献血グロベニンーI　静注射「重症感染症における抗生物質との併用」に係わる特定使用成績調査ヘリコプター・ピロリ除菌療法の既往歴のある患者；平成 24－26 年度；105 千円：日本製薬株式会社
9） 小倉真治：ジェイスの重症熱傷に対する使用成績調査；平成 24－25 年度；21 千円：株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
10） 小倉真治：ユナシンーS(キット)静注用 特定使用成績調査－肺炎, 肺膿瘍, 腹膜炎に対する高用量(1日 6g 超)投与に関する調査；平成 25－26 年度；157 千円：ファイザー株式会社
11） 小倉真治：ノイアート静注用 1500 単位 特定使用成績調査 DIC[汎発性血管内凝固症候群]；平成 25－28 年度；157 千円：一般社団法人日本血液製剤機構
12） 小倉真治：カンサイダイス点滴静注用 50mg, 70mg 使用成績調査；平成 25－28 年度；63 千円：MSD 株式会社

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

1） 小倉真治：ベイジアンネットワークによる推論を実行する推論装置、及び当該推論装置を実現するプログラム(発明)；平成 24 年(特願 2010-070532)
2） 小倉真治：位置判断装置及び位置判断方法(発明)；平成 24 年(特願 2010-081846)

6. 学会活動

1）学会役員

小倉真治：

1） 日本救急医学会 ICLS コース企画運営委員会委員長・メディカルコントロール体制検討委員・評議員・指導・専門医制度委員会・将来計画委員会・指導医認定委員会(～現在)
2） 日本集中治療医学会評議員(～現在)
3） 日本集中治療医学会評議員(～現在)
4） 日本 Shock 学会理事・評議員(～現在)
5） 日本航空医療学会評議員(～現在)
6） 日本外傷学会評議員・将来計画委員会委員・専門医認定委員(～現在)
7） 日本救急医学会中部地方会理事(～現在)
8） 日本臨床救急医学会評議員・編集委員会委員・会則検討委員・研究倫理委員(～現在)
9） 日本集団災害医学会評議員(～現在)
10） 日本組織移植学会評議員(～現在)

豊田　泉：

1） 日本救急医学会評議員・中部地方会幹事(～現在)
2） 日本脳神経外傷学会評議員・編集幹事・ガイドライン作成委員(～現在)
3） 日本脳神経外科救急医学会幹事・編集委員(～現在)
4） 日本臨床救急医学会 ACEC 委員会委員(～現在)
5） 日本航空医療学会評議員(～現在)
6） 日本神経救急学会 ISLS 委員会委員(～現在)
7） 日本高気圧環境・潜水学会地方会等検討委員(～現在)
8） 日本病院前救急診療医学会・評議員(～現在)

熊田恵介：

1） 日本救急医学会評議員(～現在)
2） 日本航空医療学会評議員(～現在)

吉田省造：

1） 日本救急医学会関東地方会幹事(～現在)

2） 日本集中医学会東海北陸地方会評議員(～現在)

土井智章：
1） 医真菌学会・侵襲性カンジダ症の診療ガイドライン作成委員会委員(～現在)
2） 第 7 回アジア救急医学会運営協力特別委員会委員(～現在)

2）学会開催
小倉真治：
1） 第 21 回日本集中治療医学会東海北陸地方会(平成 25 年 6 月，岐阜)

3）学術雑誌
小倉真治：
1） 日本救急医学会；編集委員会委員(～現在)
2） 日本臨床救急医学会；編集委員会委員(～現在)
3） 日本航空医療学会誌；査読委員(～現在)

豊田　泉：
1） 日本航空医療学会査読委員(～現在)

7．学会招待講演，招待シンポジスト，座長
小倉真治：
1） 第 17 回日本集団災害医学会総会・学術集会(平成 24 年 2 月，金沢，教育講演「平時の救急医療から災害復興まで使える情報システム GEMITS」演者)
2） 第 39 回日本集中治療医学会学術集会(平成 24 年 2 月，千葉，「敗血症性ショック治療における初期輸液・手術・血液浄化療法の役割」司会)
3） 第 39 回日本集中治療医学会学術集会(平成 24 年 2 月，千葉，「第 39 回日本集中治療医学会学術集会教育セミナー16」座長)
4） 第 15 回千葉県救急医療研究会(平成 24 年 4 月，千葉，特別講演「救急医療の全体最適化」演者)
5） 第 20 回日本集中治療医学会東海北陸地方会(平成 24 年 6 月，「パネルディスカッション」座長)
6） 第 15 回日本救急医学会中部地方会・学術集会(平成 24 年 10 月，長久手，「セミナー」座長)
7） 第 40 回日本救急医学会総会・学術集会(平成 24 年 11 月，京都，「イブニングセミナー」座長)
8） 第 40 回日本救急医学会総会・学術集会(平成 24 年 11 月，京都，「IT・医工学の救急診療への応用」司会)
9） 第27回日本外傷学会(平成25年5月，福岡，「JPTEC, JATEC 導入 10 年で外傷診療は変わったか？」司会)
10） 第 16 回日本臨床救急医学会総会・学術集会(平成 25 年 7 月，東京，「救急と漢方」座長)
11） The 7th Asian Conference on Emergency Medicine(平成 25 年 7 月，東京，「Disaster Management Training Initiatives in India」司会)
12） 第 24 回日本急性血液浄化学会(平成 25 年 9 月，東京，「分かりやすい急性中毒はどう治療するか」司会)
13） 第 20 回日本航空医療学会(平成 25 年 11 月，東京，「救急の診断」司会)
14） 第 29 回日本 Shock 学会(平成 26 年 5 月，松山，「特別講演 2」座長)
15） 第 42 回日本救急医学会総会・学術集会(平成 26 年 10 月，松山，シンポジウム 7「長期予後を見据えた治療戦略」司会)
16） 第 21 回日本航空医療学会総会(平成 26 年 11 月，大阪，パネルディスカッション 2「災害時の航空医療搬送の現状と未来」司会)
17） 第 42 回日本集中治療医学会(平成 26 年 11 月，大阪，一般演題・ポスター74「外傷症例」座長)

豊田　泉：
1） 第 40 回日本救急医学会総会・学術集会(平成 24 年 11 月，京都，シンポジウム「臓器提供における院内臓器提供連絡調整員(院内コーディネーター)の役割」演者)
2） 第 16 回日本臨床救急医学会総会・学術集会(平成 25 年 7 月，東京，「血液・凝固線溶異常 2」座長)
3） 第 28 回日本神経救急学会(平成 26 年 7 月，東京，ワークショップ「神経救急・集中治療手技のチェ

ックポイント」座長)
4) 第 42 回日本救急医学会総会・学術集会(平成 26 年 10 月，東京，ポスター「病態」座長)

牛越博昭：
1) The 7th Asian Conference on Emergency Medicine(平成 25 年 10 月，東京，シンポジウム「Cardivascular Emergencies」演者)

白井邦博：
1) 第 16 回日本臨床救急医学会総会・学術集会(平成 25 年 7 月，東京，重症患者に対するプロトコールに基づいた栄養管理療法」座長)

熊田恵介：
1) 第 16 回日本臨床救急医学会総会・学術集会(平成 25 年 7 月，東京,「病院前救護・MC」座長)
2) 第 42 回日本救急医学会総会・学術集会(平成 26 年 10 月，東京,「病院前救護・MC9」座長)

土井智章：
1) 第 15 回日本臨床救急医学会総会・学術集会(平成 24 年 6 月，熊本，教育講演「救急領域における凝固異常の基本知識」演者)

山田法顕：
1) 第 48 回日本高気圧環境・潜水医学学会(平成 25 年 11 月，東京，シンポジウム「岐阜県での高気圧酸素治療における連携体制」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

小倉真治：
1) 岐阜県国民保護協議会委員(～現在)
2) 岐阜県メディカルコントロール協議会委員(～現在)
3) 岐阜市救急業務対策協議会委員(～現在)
4) NPO 法人岐阜救急災害医療研究開発機構常務理事(～現在)
5) 救急医療情報連携地域協議会・救急医療情報連絡専門委員会委員(～現在)
6) 日本版 EHR 事業推進委員会委員(～現在)
7) 医学的検証作業班(～現在)
8) 岐阜市消防本部岐阜市救急業務対策協議会(～現在)
9) 岐阜県震災対策検証委員会・災害医療分科会委員(～現在)
10) 緊急度判定体系実証検証事業実証検証推進会議委員会構成員(～現在)
11) 災害時の診療録のあり方に関する合同委員会委員(～現在)
12) 地震対策専門委員会委員(～現在)
13)「診療行為に関連した死亡調査分析モデル事業」愛知地域・事例 15 の協働調査委員会委員(～現在)
14) D-NET データ仕様検討委員会委員(～現在)
15) ICT 超高齢社会構想会議委員(～現在)
16) 高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソンメディカル委員会委員副委員長(～現在)

豊田　泉：
1) 岐阜市救急業務高度化検討委員会委員(～現在)
2) 岐阜地域メディカルコントロール協議会委員(～現在)
3) NPO 法人岐阜救急災害医療研究開発機構理事(～現在)
4) 岐阜地域メディカルコントロール体制係る検証医師(～現在)

白井邦博：
1) 岐阜県南部エリア「事業戦略会議」委員(～現在)

吉田隆浩：
1） 岐阜地域メディカルコントロール体制係る検証医師(～現在)

名知　祥：
1） 日本救急医学会 ICLS コ･ス企画運営委員会委員(～現在)
2） 岐阜地域メディカルコントロール体制係る検証医師(～現在)
3） 日本臨床救急医学会学校 BLS 教育導入についての普及に関する委員会委員(～現在)
4） NPO 法人岐阜救急災害医療研究開発機構理事(～現在)
5） 高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソンメディカル委員会委員(～現在)

10. 報告書

1） 坂本哲也，浅井康文，長尾建，横田裕行，森村尚登，田原良雄，長谷守，國分宣明，奈良理，上妻謙，福田令雄，小野雄一，渥美生弘，上田敬博，宮城唯良，高橋巧，早川峰司，遠藤智之，土佐亮一，田神隆，水谷太郎，安田貢，阿野正樹，清田和也，小野一之，菊池研，松島久雄，北村伸哉，大谷俊介，渡辺和宏，廣瀬晴美，佐々木勝教，大友康裕，吉川和秀，大澤真木子，竹田宗和，矢口有乃，森川健太郎三宅康史，久野将宗，丹正勝久，木下浩作，新井隆男，熊坂謙一郎，堀進吾，鈴木昌，杉田学，大久保浩一，佐々木純，和藤幸弘，松田潔，小林辰輔，小倉真治，牛越博昭，小塩信介，前田稔，卯津羅雅彦東岡宏明，米森輝武，服部友紀，北川喜己，坪井重樹，立川弘孝，澤野宏隆，有本秀樹，上田恭敬，柏瀬一路，浮草実，村井隆太，小澤修一，五十嵐宣明，佐藤淳哉，陸城成浩，安藤維洋，渡辺友紀子，小谷穣治，石原正治，大谷尚之，笠岡俊志，鈴木誠，山本雄祐，大坂薫平，八木正晴，小橋秀一，百瀬直樹，野口裕幸，玉城聡，高橋由典，大川修，又吉徹，三木隆弘，倉島直樹，真方謙，菅原浩二，押山貴則，東篠圭一，小山富生，林輝行，大平順之，荒木康幸：厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)研究報告書　心肺停止患者に対する心肺補助装置等を用いた高度救命処置の効果と費用に関するエビデンスを構築するための多施設共同研究：厚生労働省（平成 24 年 3 月）
2） 小倉真治：社会全体で共有する緊急度判定(トリアージ)体系のあり方検討会報告書：消防庁(平成 24 年 3 月)
3） 小倉真治：平成 24 年度地域新成長産業創出促進事業費補助金「次世代航空宇宙関連産業国際競争力強化支援事業」：社団法人中部航空宇宙技術センター(平成 25 年 3 月)
4） 有賀　徹，石井正三，奥寺　敬，日下淳弘，佐藤慎一，坂本哲也，田邊晴山，中村惠子，中村充男，橋本雄太郎，平中　隆，星川英一，松川茂夫，松田剛明，松月みどり，森村尚登，行岡哲男，横田順一朗，吉川清志，青木則明，根尾雅弘，川崎貞男，泉　裕之，伊藤重彦，織田　順，清武直志，久保田勝明，熊井規夫，桑原正彦，坂本哲也，櫻井　淳，杉田　学，工廣紀斗司，田邊晴山，服部良一，林　靖之，平仲　隆，星川英一，前田幸宏，松本　尚，三宅康史，森村尚登，行岡哲男，横田順一朗，青木則明，徳本史郎：平成 24 年度　緊急度判定体系実証検証事業報告書：消防庁(平成 25 年 3 月)

11. 報道

1） 小倉真治：救急医療の全体最適化の要、岐阜県ドクターヘリ：日本光電(2012 年 1 月)
2） 小倉真治：救急医療の現状と課題・そして展望　地方の場合①：日経ラジオ(2012 年 2 月 16 日)
3） 小倉真治：救急医療の現状と課題・そして展望　地方の場合②：日経ラジオ(2012 年 2 月 23 日)
4） 小倉真治：NEWS 5 PLUS：岐阜チャン(2012 年 2 月 24 日)
5） 小倉真治：救急搬送システム手応え：岐阜新聞(2012 年 2 月 25 日)
6） 井原　頌：心肺蘇生法　習得に真剣：中日新聞(2012 年 4 月 25 日)
7） 小倉真治：介護　家族救急時に支援：中日新聞(2012 年 5 月 27 日)
8） 小倉真治：最適な救急・災害医療供給を支える ICT 活用を提言：デジタルヘルス Online (2012 年 8 月 10 日)
9） 名知　祥：CPR・AED 講習会：　CBC テレビ(2012 年 8 月 23 日)
10） 小倉真治：救急車適正利用のススメ：GIFT (2012 年 9 月 1 日)
11） 小倉真治：鵜飼や刃物、文化に触れる：岐阜新聞(2012 年 9 月 20 日)
12） 小倉真治：NEWS 5 PLUS：岐阜チャン(2012 年 10 月 4 日)
13） 小倉真治：糖尿病患者に IC カード：NHK (2012 年 10 月 4 日)
14） 小倉真治：糖尿病患者に IC カード：岐阜新聞(2012 年 10 月 5 日)
15） 小倉真治：ほっとイブニングぎふ：NHK (2012 年 10 月 10 日)

16） 小倉真治：あなたが主役 50 ボイス「最先端医療ボイス」: NHK (2012 年 10 月 13 日)
17） 小倉真治：医療情報カード救急医療に効果：中日新聞(2012 年 10 月 23 日）
18） 小倉真治：防災事始め関市中 1 必修で救命講習：中日新聞(2012 年 11 月 11 日)
19） 小倉真治：市場創造健康/医療：日本経済新聞(2013 年 3 月 27 日)
20） 小倉真治：[事例] 救急医療から高齢者の包括的な情報連携までの支援を目指す「GEMAP」: デジタルヘルス Online (2013 年 3 月 29 日)
21） 豊田　泉：県ドクターヘリ活用に地域差：岐阜新聞(2013 年 4 月 21 日)
22） 小倉真治：岐阜大病院救急搬送 IT 化を受け入れ可否病院から送信：中日新聞(2013 年 5 月 6 日)
23） 小倉真治：ICT を医療に活用：中日新聞(2013 年 6 月 1 日)
24） 小倉真治：間部の"IT 化”カード 1 枚で病院もバスも：CBC テレビ(2013 年 6 月 17 日)
25） 小倉真治：患者情報カード検討：中日新聞(2013 年 9 月 19 日)
26） 小倉真治：メディカカード導入へ：岐阜新聞(2013 年 9 月 19 日)
27） 小倉真治：ぎふ人もよう岐阜大学孝治救命治療センター長小倉真治：中日新聞(2013 年 10 月 14 日)
28） 小倉真治：ICT で先進の街：読売新聞(2013 年 11 月 10 日)
29） 小倉真治：本地洋一のわくわくワンダーランド：ぎふチャン(2013 年 11 月 19 日)
30） 豊田　泉：岐阜基地医療拠点に：読売新聞(2014 年 2 月 12 日)
31） 小倉真治：救急医療に熱視線：岐阜新聞(2014 年 6 月 20 日)
32） 小倉真治：岐阜大病院大規模災害を想定/医学部生 100 人、訓練奮闘：岐阜新聞(2014 年 7 月 12 日)
33） 名知　祥：胸骨圧迫、こつつかむ：岐阜新聞(2014 年 8 月 12 日)
34） 小倉真治：岐阜の医療を考える：岐阜新聞(2014 年 9 月 7 日)
35） 小倉真治：岐阜大学病院に遺伝子診療部：岐阜新聞(2014 年 10 月 2 日)
36） 小倉真治：県初の新出生前診断：中日新聞(2014 年 10 月 2 日)
37） 小倉真治：臓器移植登録、随時 OK：岐阜新聞(2014 年 11 月 5 日)

12. 自己評価

評価

前述の目的に沿った研究を，それぞれの分野において少しずつではあるが，結果は出している。

現状の問題点及びその対応策

臨床業務が多忙であり，研究のための時間を取りづらいのが現状である。しかし，ラボの充実をはかることにより徐々に新たな研究に取り組むことが可能になってきている。

今後の展望

前期のような現状であるが，徐々に教育スタッフが増加しており今後はさらに臨床データの解析とのコラボレーションとして研究を促進したい。

（6）法医学分野

1. 研究の概要

これまでと同様。法医病理学的な研究としては，従来は死後の角膜混濁のため，眼球を剔出しなければ観察できなかった眼内所見を眼科手術的に開発された先端径が 0.9mm の内視鏡を用いて解剖時に観察し，眼底出血等の発生と死因や受けた損傷との関係，その意義等について検討し，眼底出血は頭蓋内出血や頸部圧迫による窒息死例等に高頻度に認められるのに対し，うっ血乳頭は頭蓋内出血死例では認められるが，頸部圧迫による窒息死例では認められないことを明らかにし，また，溺死例においても高頻度に眼底出血が認められることを新知見として報告することができた。また，突然死の原因としての冠動脈奇形の意義や致命的不整脈における心臓の組織学的変化について等の研究を行った。DNA 多型に関する研究では，ミトコンドリア DNA 高変異領域の塩基配列解析ならびに STR(short tandem repeat)多型および INDEL (insersion-deletion)多型の出現頻度や多型構造の解析を行い，DNA 鑑定において必要となる，岐阜県在住の日本人集団を対象としたデータベースを構築することができた。また，ミトコンドリア DNA HVIII 領域に存在する length heteroplasmy の構造を解析し，その法医学的応用について研究したほか，X 染色体上の STR 座位の日本人集団における高度な構造多型を明らかにし，その人類遺伝学的解析も行った。

2. 名簿

教授：　武内康雄　　Yasuo Bunai
助教：　永井　淳　　Atsushi Nagai

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1） 永井　淳. DNA 指紋法：岐阜大学教養教育推進センター 編. 世紀の発見・発明, みらい社；2012 年：90－91.

著書（欧文）

1） Bunai Y, Akaza K, Nagai A. Hyperthermia: pathological findings and recognition at forensic autopsies. In: Gao XH, Chen HD, eds. Hyperthermia: recognition, prevention and treatment. Nova Science Publishers. 2012;209-214.

総説（和文）

1） 武内康雄, 赤座香予子, 永井　淳. 脂肪塞栓, 法医病理　2013 年；19 巻：72－81.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

1） 武内康雄, 赤座香予子, 辻中正壮, Mostafa Ali Elmadawy, 永井　淳. 電撃型脂肪塞栓症, 法医病理　2013 年；19 巻：39－41.
2） 永井　淳, 武内康雄, 原　正昭, 木戸　啓. DXS10146 のフランキング領域における INDEL 多型, DNA 多型　2013 年；21 巻：157−159.
3） 永井　淳, 石原知美, Mostafa Ali Elmadawy, 武内康雄. エジプト人集団における 15 種の STR の多型解析, DNA 多型　2014 年；22 巻：124−125.
4） 武内康雄. 法医学から, 日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会雑誌　2014 年；14 巻：47.

原著（欧文）

1） Endo S, Arai Y, Hara A, Kitade Y, Bunai Y, El-Kabbani O, Matsunaga T. Substrate specificity and inhibitor sensitivity of rabbit 20α-hydroxysteroid dehydrogenase. Biol Pharm Bull. 2013;36:1514-1518.　IF 1.778
2） Endo S, Matsunaga T, Matsumoto A, Arai Y, Ohno S, El-Kabbani O, Tajima K, Bunai Y, Yamano S, Hara A, Kitade Y. Rabbit 3-hydroxyhexobarbital dehydrogenase is a NADPH-preferring reductase with broad substrate specificity for ketosteroids, prostaglandin D2, and other endogenous and xenobiotic carbonyl compounds. Biochem Pharmacol. 2013;86:1366-1375.　IF 4.650
3） Nagai A, Hara M, Ishihara T, Tamura A, Kido A, Bunai Y. INDEL polymorphisms at the DXS10146 flanking region in four racial populations. Forensic Sci Int Gene Supple. 2013;4:318-319.
4） Sugiyama S, Chong YH, Shito M, Kasuga M, Kawakami T, Udagawa C, Aoki H, Bonkobara M, Tsuchida S, Sakamoto A, Okuda H, Nagai A, Omi T. Analysis of mitochondrial DNA HVR1 haplotype of pure-bred domestic dogs in Japan. Leg Med. 2013;15:303-309.　IF 1.441
5） Elmadawy MA, Nagai A, Gomaa GM, Hegazy HM, Shaaban FE, Bunai Y. Investigation of mtDNA control region sequences in an Egyptian population sample. Leg Med. 2013;15:338-341.　IF 1.441

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1） 研究代表者：永井　淳；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：日本人に適したマルチプレックス INDEL 多型検出システムの構築とその法医学的応用；平成 25－27 年度；2,500 千円(1,000：800：700 千円)

2） 研究代表者：原　正昭，研究分担者：永井　淳；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：ヒトを吸血した蚊から吸血後の経過時間推定及び個人識別；平成 26－28 年度；300 千円(100：100：100 千円)

2）受託研究

1） 武内康雄：薬毒物検査等受託事業費；平成 24 年度；8,452 千円：岐阜県警察本部

2） 武内康雄：薬毒物検査等受託事業費；平成 25 年度；6,668 千円：岐阜県警察本部

3） 武内康雄：薬毒物検査等受託事業費；平成 26 年度；7,525 千円：岐阜県警察本部

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

武内康雄：

1） 日本法医学会評議員(～現在)

2） 日本法医学会理事(平成 25 年 6 月～現在)

3） 日本法医学会認定医制度運営委員長(平成 25 年 6 月～現在)

4） 日本法医学会用語委員会委員(平成 25 年 6 月～現在)

5） 法医病理研究会運営委員(～現在)

6） 日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会評議員(～現在)

7） 日本 SIDS・乳幼児突然死予防学症例検討委員(～現在)

8） 日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会診断基準検討委員(～現在)

9） 日本 SIDS・乳幼児突然死予防学理事(～現在)

永井　淳：

1） 日本 DNA 多型学会評議員(～平成 26 年 12 月)

2） 日本比較臨床医学会評議員(平成 24 年 7 月～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

武内康雄：

1） 法医病理；編集委員長(～平成 26 年 10 月)

2） 法医病理；編集委員(平成 26 年 11 月～現在)

3） Legal Medicine；Editorial Board(～現在)

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

武内康雄：

1） 第 49 回医学系大学倫理委員会連絡会議学術集会(平成 26 年 7 月，岐阜，「疫学研究・臨床研究倫理指針の改正について」「再生医療等の安全性の確保等関する法律について」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

年間 60～80 体の法医解剖の鑑定を嘱託されており，解剖やその後の検査，鑑定書作成等のため研究のための時間が制約されているが，それなりの成果をあげられたと思っている。

現状の問題点及びその対応策

法医学分野では，現在 2 名の教員が教育・研究・実務に従事しており，研究などの面では国内外から相応の評価を受けている。しかしながら，研究領域がやや固定化してきていることは否めず，また，人事が固定化しつつあるという問題点もある。そこで，今後は学外との共同研究を目指しながら，学問の進歩に則し新しい研究手法を取り入れ，時代の傾向に則して研究分野を広げる必要があると考えられる。また，本分野に新しい息吹を引き起こすために，大学院生が入学しやすい環境と設備を整えることが急務であると考えられる。

今後の展望

法医病理学的な研究として，今後外傷の病理，特に，受傷後早期に起こる変化について，分子病理学的研究を始めたい。DNA 多型に関する研究では，引き続き日本人集団における DNA 多型のデータベース化を進めるとともに，個人識別に有用な DNA 多型領域の検討ならびに DNA 多型のより効率的な検出法の開発等，世界の趨勢に遅れず，研究を推進していきたい。

（7）産業衛生学分野

1. 研究の概要

衛生学は広い意味での環境とヒトの関わりを解析し，ヒトの健康の保持・増進に寄与することを目的とした実学である。衛生学は包括的な応用科学であって，基礎医学に属するものではなく，社会医学の一分野である。従って，社会の要請に積極的に答えていかなくてはならない宿命にある。現在の産業衛生学分野の研究内容は，職場における実践活動を通じたもので，以下のような研究を行っている。

（1）建設労働者，浄化槽法定検査業務従事者などの屋外労働者を対象に健康問題，作業環境，労働条件の検討を行い，快適職場づくりのための研究，（2）熱中症，振動障害，騒音性難聴の予防の研究，（3）各種職場における腰痛をはじめとした筋骨格系障害予防の研究，(4)職場のメンタルヘルス対策の研究，(5)医師をはじめとした医療従事者および医療系学生の健康障害予防の研究を行っている。

2. 名簿

准教授：　井奈波良一　　Ryoichi Inaba

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1）井奈波良一．振動障害：山口徹編．今日の治療指針　54 版，東京：医学書院；2012 年：874－875.
2）井奈波良一．熱中症(熱射病、熱疲労)：内科外来で診るマイナーエマージェンシー　Medical Practice 臨時増刊，東京：文光堂；2014 年：5－8.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

1）井奈波良一．打ち揚げ花火と健康，日本健康医学会雑誌　2012 年；20 巻：214－217.
2）井奈波良一，黒川淳一，大西信行，萩　典子，近藤信子．管理監督者による職場のメンタルヘルス問題への取り組み，保健の科学　2012 年；54 巻：225－228.
3）井奈波良一．花火と事故，日本職業・災害医学会会誌　2013 年；61 巻：319－323.
4）井奈波良一，田中　耕．花火と大気微少粒子状物質(PM2.5)，日本職業・災害医学会会誌　2014 年；62 巻：94－95.
5）井奈波良一．豪雪による人的被害の動向，日本職業・災害医学会会誌　2014 年；62 巻：364－369.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

1）井奈波良一，杉浦春雄．医学生と薬学生のバーンアウト状況および日常生活習慣，日本健康医学会雑誌 2012 年；20 巻：228－233.
2）井奈波良一，井上眞人，日置敦巳．1 年目研修医の日中の過度の眠気と勤務状況、日常生活習慣および職業性ストレスの関係，日本職業・災害医学会会誌　2012 年；60 巻：61－69.
3）井奈波良一，黒川淳一．管理監督者が期待する労働者のメンタルヘルス不調に対する事業所、産業医および医療機関による早期支援に関する調査，日本職業・災害医学会会誌　2012 年；60 巻：140－146.
4）黒川淳一，永井典子，森本裕己，木下美雪，日比野裕文，末続なつ江，井上眞人，加藤荘二，吉田弘道，井奈波良一，岩田弘敏．精神科医療従事者のライフスタイルとストレス対処行動に関する調査，日本職業・災害医学会会誌　2012 年；60 巻：206－215.
5）井奈波良一，長縄　孝．一国立大学法人医学部における職場巡視結果の経年的分析第 2 報，日本職業・災害医学会会誌　2012 年；60 巻：222－225.
6）黒川淳一，大澤早苗，永井典子，森本裕己，木下美雪，日比野裕文，末続なつ江，井上眞人，加藤荘二，吉田弘道，井奈波良一，岩田弘敏．精神科病院における夏期の作業環境測定とストレスに関する調査，日本職業・災害医学会会誌　2012 年；60 巻：252－263.
7）井奈波良一．わが国の職場のメンタルヘルス対策の経済評価に関する文献研究，日本職業・災害医学会会誌　2012 年；60 巻：278－281.
8）黒川淳一，永井典子，森　直美，森本裕己，木下美雪，大澤早苗，日比野裕文，末続なつ江，井上眞人，加藤荘二，吉田弘道，井奈波良一，岩田弘敏．抗精神病薬の使用と副作用に関する職員アンケート調査，日本職業・災害医学会会誌　2012 年；60 巻：332－341.
9）井奈波良一．医学生の産業医志向に関する調査，日本職業・災害医学会会誌　2013 年；61 巻：193－198.
10）井奈波良一，黒川淳一，井上眞人．埋蔵文化財発掘調査機関における熱中症予防対策実施状況，日本職業・災害医学会会誌　2013 年；61 巻：225－231.
11）黒川淳一，永井典子，末続なつ江，井上真人，井奈波良一，岩田弘敏．精神科治療における服薬状況に関

するアンケート調査，日本職業・災害医学会会誌　2013 年；61 巻：382－392.
12） 井奈波良一. 花火打ち揚げ事業場における熱中症予防対策実施状況，日本職業・災害医学会会誌　2013 年；61 巻：393－399.
13） 井奈波良一，黒川淳一，植木啓文．うつ病労働者が期待する労働者のメンタルヘルス問題への事業場、産業医、医療機関による早期支援に関する調査，日本職業・災害医学会会誌　2014 年；62 巻：1－7.
14） 井奈波良一．女性看護師のバーンアウトの仕事の生産性への影響，日本職業・災害医学会会誌　2014 年；62 巻：173－178.
15） 井奈波良一. 民家の食堂における焼肉による PM2.5 の経時的変化，日本職業・災害医学会会誌　2014 年；62 巻：238－241.
16） 井奈波良一，日置敦巳，近藤剛弘，中村弘揮，中村光浩．病院薬剤師の職業性ストレス，日本職業・災害医学会会誌　2014 年；62 巻：322－327.

原著（欧文）
1） Inaba R, Kondo Y, Hioki A. Health problems related to drug compounding of pharmacists in dispensing pharmacies. JJOMT. 2012;60:23-31.
2） Inaba R, Hioki A. Working conditions and work-related stress among male physicians: A comparison in private and public general hospitals. JJOMT. 2013;61:55-61.
3） Iijima S, Yokoyama K, Kitamura F, Fukuda T, Inaba R. Cost-benefit analysis of comprehensive mental health prevention programs in Japanese workplaces: A pilot study. Ind Health. 2013;51:627-633. IF 1.045
4） Sako S, Sugiura H, Tanoue H, Kojima M, Kono M, Inaba R. The position of a standard optical computer mouse affects cardiorespiratory responses during the operation of a computer under time constraints. Int J Occup Med Env. 2014;27:547-559. IF 1.094

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1） 研究代表者：横山和仁，研究分担者：井奈波良一；厚生労働科学研究費補助金：職場におけるメンタルヘルス対策の有効性と費用対効果に関する研究；平成 23－24 年度；900 千円(500：400 千円)
2） 研究代表者：井奈波良一；学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究：調剤業務伴う薬物曝露に起因する健康障害とその対策に関する研究；平成 24－26 年度；3,510 千円(1,430：1,430：650 千円)

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

井奈波良一：
1） 日本衛生学会評議員(～現在)
2） 日本産業衛生学会代議員(～現在)
3） 日本民族衛生学会評議員(～現在)
4） 日本温泉気候物理医学会評議委員(～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

井奈波良一：
1） 第 85 回日本産業衛生学会(平成 24 年 5 月，名古屋，シンポジウム「節電時代の夏期オフィス温熱環

境の課題と対策」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

井奈波良一：

1) 岐阜市環境審議会委員(～現在)
2) 産業保健相談員(岐阜産業保健推進センター)(～現在)
3) 労働衛生指導医(岐阜労働局)(～現在)
4) 岐阜県環境影響評価審査会委員(～現在)
5) ヘルスプランぎふ 21 推進会議委員(平成 24 年度～現在)

10. 報告書

1) 井奈波良一：職場のメンタルヘルス対策の有効性および経済評価に関する文献研究：平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金　総括・分担研究報告書(横山班)：51－73(平成 24 年 3 月)
2) 井奈波良一：職場のメンタルヘルス対策の有効性および経済評価に関する国際文献研究および情報関係事業場におけるメンタルヘルス改善意識調査：平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金　総括・分担研究報告書(横山班)：41－55(平成 25 年 3 月)

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

概要に示した当分野の研究を実施し，論文を作成した。論文については，全体の数は十分だと考えられるが，欧文論文をさらに増やすべく努力が必要である。外部資金については，科学研究費補助金，厚生労働科学研究費補助金，奨学寄付金を得たが，今後も継続して獲得する必要がある。社会活動については十分行われていると考えている。

現状の問題点及びその対応策

教員が 1 名でマンパワーの面で問題があり，また研究室が手狭のため実験的な研究がほとんどできないという問題点がある。これを打開するために他分野，他施設との共同研究に力を入れている。

今後の展望

今後とも，職場の実践活動を通じた研究を行い，その成果を職場に還元したい。当面，教員数の増員は望めそうもないので，産業衛生の重要性を強く訴え，また大学院生，研究生の受け入れや他分野，他施設との共同研究で当分野の発展の活路を見いだしたい。

（8）医学教育学分野

1. 研究の概要

大学院医学教育学分野として大学院生 8 名，研究生 1 名を指導し，研究を推進している。医学教育学は，医学・医療教育分野における多面的な課題を究明し，効果的な教育方法を研究する学問領域であり，医学・医療教育を行うための具体的知識やスキルの習得を目指している。本課程を修了した者は，医学教育学の専門家として，教員・医師・学生等を指導する能力を有し，教育システムを自ら構築・改善し，研究を遂行できることを目標とする。医学教育開発研究センターは全国共同利用施設として活動しており，今後，全国からの大学院教育希望者の受け皿としても機能していきたいと考えている。

医学教育研究は近年急激な発展を遂げており，当分野でも卒前から生涯教育に至るまで，知識・技能・態度教育と多岐にわたる研究を行っており，特にコミュニケーション，PBL，シミュレーション，プロフェッショナリズム，人材育成，教職員養成，試験方法などの研究に力を入れている。また医師教育だけでなく，看護・薬学・歯学など，多職種の共通課題に取り組んでおり，多職種連携教育の研究にも力を入れている。研究手法は量的研究と質的研究を組み合わせ，多面的な分析を行っている。

2. 名簿

教授(併任)：	鈴木康之	Yasuyuki Suzuki
教授(併任)：	藤崎和彦	Kazuhiko Fujisaki
教授(併任)：	丹羽雅之	Masayuki Niwa
准教授(併任)：	西城卓也	Takuya Saiki
助教(併任)：	川上ちひろ	Chihiro Kawakami
助教(併任)：	今福輪太郎	Rintaro Imafuku
助教(併任)：	阪下和美	Kazumi Sakashita

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之，田邊政裕，朝比奈真由美．新しい医学教育の流れ'11 秋．第 42 回医学教育セミナーとワークショップの記録，名古屋：三恵社；2012 年：1－172.
2) 若林英樹，鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之．新しい医学教育の流れ'12 冬．第 43 回医学教育セミナーとワークショップの記録，名古屋：三恵社；2012 年：1－156.
3) 川上ちひろ，鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之，石川和信．新しい医学教育の流れ'12 春．第 44 回医学教育セミナーとワークショップの記録，名古屋：三恵社；2012 年：1－142.
4) 西城卓也，鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之．新しい医学教育の流れ'12 夏．第 45 回医学教育セミナーとワークショップの記録，名古屋：三恵社；2012 年：1－240.
5) 西城卓也，鈴木康之，椎橋美智男，菊川　誠，青松棟吉．新しく医学教育に携わることになった教員のための楽しい医学教育ベーシック：新しい医学教育の流れ'12 夏．第 45 回医学教育セミナーとワークショップの記録，名古屋：三恵社；2012 年：79－121.
6) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．日本の医学教育の挑戦，東京：篠原出版新社；2012 年：1－241.
7) Suzuki Y. Perspective for the future medical education in Japan：鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．日本の医学教育の挑戦，東京：篠原出版新社；2012 年：9－15.
8) 藤崎和彦．医学教育専門家養成：鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．日本の医学教育の挑戦，東京：篠原出版新社；2012 年：16－22.
9) 鈴木康之，加藤智美．問題基盤型学習：鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．日本の医学教育の挑戦，東京：篠原出版新社；2012 年：44－48.
10) 藤崎和彦．医療コミュニケーション教育：鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．日本の医学教育の挑戦，東京：篠原出版新社；2012 年：56－62.
11) 西城卓也，川尻宏昭．外来における臨床教育：鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．日本の医学教育の挑戦，東京：篠原出版新社；2012 年：114－118.
12) 川上ちひろ，加藤智美，阿部恵子，村岡千種，那波潤美．初年時における地域基盤型教育：鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．日本の医学教育の挑戦，東京：篠原出版新社；2012 年：146－150.
13) Driessen E, Yoshimura M, Suzuki Y. Portfolio in Medical Education：鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．日本の医学教育の挑戦，東京：篠原出版新社；2012 年：194－199.
14) 丹羽雅之．e-ポートフォリオシステムの構築と利用：鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．日本の医学教育の挑戦，東京：篠原出版新社；2012 年：200－204.
15) 鈴木康之，加藤智美．小児 OSCE：鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．日本の医学教育の挑戦，東京：篠原出版新社；2012 年：216－221.
16) 丹羽雅之．Faculty Development の企画・運営：鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．日本の医学教育の挑戦，東京：篠原出版新社；2012 年：222－227.

17) 鈴木康之. 教務事務職員に知ってほしい 10 のポイント：鈴木康之, 藤崎和彦, 丹羽雅之編. 日本の医学教育の挑戦, 東京：篠原出版新社；2012 年：228－232.
18) 鈴木康之, 下澤伸行. 副腎白質ジストロフィーの造血幹細胞移植療法：Annual Review 神経 2012, 東京：中外医学社；2012 年：241－245.
19) 鈴木康之. 小児科医の役割：遠藤文夫編. 小児科診療ガイド, 東京：中山書店；2012 年：2－4.
20) 鈴木康之. 身体診察の基本：遠藤文夫編. 小児科診療ガイド, 東京：中山書店；2012 年：8－11.
21) 鈴木康之. 副腎白質ジストロフィー：大生定義編. すべての内科医が知っておきたい神経疾患の診かた, 考え方とその対応, 東京：羊土社；2012 年：265－266.
22) 藤崎和彦. 学習方法：全国歯科衛生士教育協議会編. 全国歯科衛生士教育協議会「平成 24 年度歯科衛生士専任教員講習会 I テキスト」, 名古屋：全国歯科衛生士教育協議会；2012 年：5－16.
23) 西城卓也, 錦織　宏, 奈良信雄. 正統的周辺参加論に基づく Clinical Clerkship の構造：McGill 大学の事例研究：医学教育 第 43 巻, 東京：篠原出版新社；2012 年：2－8.
24) 西城卓也, 菊川　誠, 錦織　宏. アジア・太平洋地区における医学教育のコラボレーション：医学教育 第 43 巻, 東京：篠原出版新社；2012 年：40.
25) 西城卓也, 鈴木康之, 藤崎和彦, 田川まさみ, 吉岡俊正. 「医学教育専門家養成を目指したパイロットコースワーク第 3 弾：カリキュラムの開発・評価」報告：医学教育 第 43 巻, 東京：篠原出版新社；2012 年：66.
26) 鈴木富雄, 高見勇一郎, 伴信太郎, 西城卓也, 丹下直幸. 関節炎が 18 年間先行した乾癬性関節炎の 1 例：日本脊椎関節炎学会 第 4 巻, 2012 年：53－58.
27) 西城卓也. 臨床推論の教育：大西弘高編. The 臨床推論, 東京：南山堂；2012 年：212－220.
28) 西城卓也. 医学教育研究の努力のご褒美：医学教育 第 43 巻, 東京：篠原出版新社；2012 年：394－395.
29) 西城卓也. 医学教育の輸出入と新植民地主義：医学教育 第 43 巻, 東京：篠原出版新社；2012 年：429－431.
30) 藤崎和彦, 鈴木康之, 丹羽雅之編. 新しい医学教育の流れ'12 秋. 第 46 回医学教育セミナーとワークショップの記録, 名古屋：三恵社；2013 年：1－170.
31) 西城卓也, 尾原晴雄, 錦織　宏, 向原　圭, 石川ひろの, 大滝純司, 伊藤俊之, 鈴木康之. 医学教育研究はじめの一歩―リサーチクエスチョンを立ててみよう：鈴木康之編. 新しい医学教育の流れ'12 秋－第 46 回医学教育セミナーとワークショップの記録, 名古屋：三恵社；2013 年：87－97.
32) 丹羽雅之, 鈴木康之, 藤崎和彦, 大屋祐輔, 阿部幸恵編. 新しい医学教育の流れ'13 冬. 第 47 回医学教育セミナーとワークショップの記録, 名古屋：三恵社；2013 年：1－154.
33) 西城卓也, 吉岡俊正, Keh-Min Liu, Ducksun Ahn, 鈴木康之, 奈良信雄, 北村　聖. WFME Global Standard: Perspectives from East Asian Experiences- adaptation, reformation or Quality improvement? ：鈴木康之編. 新しい医学教育の流れ'13 冬－第 47 回医学教育セミナーとワークショップの記録, 名古屋：三恵社；2013 年：5－28.
34) 鈴木康之, 藤崎和彦, 丹羽雅之, 小西靖彦, 錦織宏編. 新しい医学教育の流れ'13 春. 第 48 回医学教育セミナーとワークショップの記録, 名古屋：三恵社；2013 年：1－185.
35) 西城卓也, 鈴木康之, 藤崎和彦, 丹羽雅之編. 新しい医学教育の流れ'13 秋. 第 50 回医学教育セミナーとワークショップの記録, 名古屋：三恵社；2013 年：1－210.
36) 藤崎和彦. 学習方法：全国歯科衛生士教育協議会編. 全国歯科衛生士教育協議会「平成 25 年度歯科衛生士専任教員講習会Ⅱテキスト」, 名古屋：全国歯科衛生士教育協議会；2013 年：26－36.
37) 藤崎和彦. 医療コミュニケーション研究の現状とチーム医療：石崎雅人, 野呂幾久子編. これからの医療コミュニケーションに向けて, 東京：篠原出版新社；2013 年：23－30.
38) 西屋克己, 西城卓也. 1 章:よい教育者とは：大西弘高監訳, 西屋克己, 西城卓也和訳. 医学教育を学び始める人のために, 東京：篠原出版新社；2013 年：3－9.
39) 今福輪太郎, 西城卓也. 2 章:基本的教育原理の理解：大西弘高監訳, 今福輪太郎, 西城卓也和訳. 医学教育を学び始める人のために, 東京：篠原出版新社；2013 年：10－21.
40) 西城卓也, Yvonne Steinert, 阪下和美. 魅力あるワークショップの構築：西城卓也, 鈴木康之, 藤崎和彦, 丹羽雅之編. 新しい医学教育の流れ'13 秋－第 50 回記念医学教育セミナーとワークショップの記録, 名古屋：三恵社；2013 年：43－65.
41) 西城卓也, 尾原晴雄, 錦織　宏, 向原　圭, 石川ひろの, 大滝純司, 伊藤俊之, 鈴木康之. 医学教育研究のスタートを洗練する：西城卓也, 鈴木康之, 藤崎和彦, 丹羽雅之編. 新しい医学教育の流れ'13 秋－第 50 回記念医学教育セミナーとワークショップの記録, 名古屋：三恵社；2013 年：33－42.
42) 西城卓也. 英語を必要とする, 明確かつ具体的なゴールが英語力を上達させる：岐阜大学教養教育推進センター編. 教養ブックレット 大学で「使える」英語を学ぶ方法, 岐阜：みらい；2013 年：54－55.
43) 鈴木康之. 小児科医の役割：小児科研修ノート改訂第 2 版, 東京：診断と治療社；2014 年：5－6.
44) 鈴木康之. 医学教育研究：日本医学教育学会編. 医学教育白書 2014 年版, 東京：篠原出版新社；2014 年：109－112.
45) 鈴木康之. 教育研究開発委員会：日本医学教育学会編. 医学教育白書 2014 年版, 東京：篠原出版新社；2014 年：319.
46) 平出　敦, 藤崎和彦, 西城卓也, 鈴木康之. 医学教育専門家育成：日本医学教育学会編. 医学教育白書 2014 年版, 東京：篠原出版新社；2014 年：113－115.
47) 藤崎和彦. プロフェッショナリズム教育：日本医学教育学会編. 医学教育白書 2014 年版, 東京：篠原出版新社；2014 年：146－154.

48) 藤崎和彦．科学論－命と癒やしの科学論－：国立大学法人岐阜大学教養教育推進センター編．教員による授業の工夫集，岐阜：岐阜大学教養教育推進センター；2014 年：18－19.
49) 丹羽雅之．抗炎症、免疫関連薬：野村隆英，石川直久編．シンプル薬理学 改訂第 5 版，東京：南江堂；2014 年：223－258.
50) 丹羽雅之．痛風治療薬：野村隆英，石川直久編．シンプル薬理学 改訂第 5 版，東京：南江堂；2014 年：273－274.
51) 川上ちひろ，鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'13 夏．第 49 回医学教育セミナーとワークショップの記録，名古屋：三恵社；2014 年：1－131.
52) 丹羽雅之．医学教育ユニットの現状：医学教育学会　広報・情報基盤開発委員会編．医学教育白書 2014 年版，医学教育別冊，東京：篠原出版新社；2014 年：116－118.
53) 西城卓也，丹羽雅之，川上ちひろ，今福輪太郎，阪下和美，藤崎和彦，鈴木康之．医療者教育における教育者養成のこれまでとこれから：医学教育セミナーとワークショップの歴史が示す将来：医学教育　第 45 巻，東京：篠原出版新社；2014 年：13－24.
54) 西城卓也．これからの医療コミュニケーションへ向けて：医学教育　第 45 巻，東京：篠原出版新社；2014 年：8.
55) 西城卓也．プライマリ・ケア医のためのチェックポイント集：医学教育　第 45 巻，東京：篠原出版新社；2014 年：12.
56) 西城卓也，藤崎和彦，奈良信雄．第 51 回医学教育セミナーとワークショップ in　東京医科歯科大学：医学教育　第 45 巻，東京：篠原出版新社；2014 年：46－47.
57) 西城卓也．第 54 回医学教育セミナーとワークショップ in 九州大学：医学教育　第 45 巻 4 号，東京：篠原出版新社；2014 年：292.
58) 青松棟吉，大谷　尚，西城卓也．医学教育における研究倫理：医学教育 第 45 巻 4 号，東京：篠原出版新社；2014 年：249－267.
59) 西城卓也．教育実践への情熱を基にした，冷静なリサーチクエスチョンの生成：医学教育　第 45 巻 5 号，東京：篠原出版新社；2014 年：331－337.

著書（欧文）

1) Tomatsu S, Montaño AM, Oikawa H, Giugliani R, Harmatz P, Smith M, Suzuki Y, Orii T. Impairment of Body Growth in Mucopolysaccharidoses. In: Preedy VR ed. Handbook of Growth and Growth Monitoring in Health and Disease. Springer; 2012:2091-2117.
2) Hara A, Aoki H, Takamatu M, Hatano Y, Tomita H, Kuno K, Niwa M, Kunisada T. Human embryonic stem cells transplanted into mouse retina induces neural differentiation. In: Tumors of the central nervous system, Stem Cells and Cancer Stem Cells, pt2. Part 4. Springer; 2012:291-298.
3) Niwa M, Nakashima M, Satoh K, Takamatsu M, Kobayashi K, Hatano Y, Hara A. Hypothermia and Hyperthermia affect neuronal degeneration, delayed neuronal death and microglial activation following transient forebrain ischemi. In: Delgado JIV and Garza VGF, ed Hypothermia:Prevention, Recognition and Treatment. Nova Science Publish; 2012:1-10.
4) Stalmeijer RE, Saiki T, Durante E, Strand P, Fernando C. With a little help from your almni, SHE commnicates; 2012:8-9.
5) Yoshida T, Fujisaki K. Interpersonal Communication Training in Dental Education. In: David I. Mostofsky, Farida Fortune, eds. Behavioral Dentistry, 2nd ed. Iowa: Blackwell Pub Professional; 2014:283-292.

総説（和文）

1) 鈴木康之．成人学習，日本小児科学会雑誌　2012 年；116 巻：133－135.
2) 鈴木康之，関口進一郎．カリキュラムの基本，日本小児科学会雑誌　2012 年；116 巻：813－815.
3) 西屋克己，鈴木康之．学習者評価の基本，日本小児科学会雑誌　2012 年；116 巻：1197－1198.
4) 鈴木康之．医療羅針盤・私の提言－よりよい後進育成は全ての医療者の責任であり，今こそティーチャー・トレーニングが求められている，月刊新医療　2012 年；449 巻：18－21.
5) 鈴木康之．モルキオ症候群. VIII 代謝＜ムコ多糖症＞，内科増大号：知っておきたい内科症候群　2012 年；109 巻：1361－1362.
6) 鈴木康之．ムコ多糖症 III 型，日本臨床　新領域別症候群シリーズ　2012 年；20 巻：539－542.
7) 鈴木康之．ムコ多糖症の治療とケア，難病と在宅ケア　2012 年；18 巻：20－23.
8) 鈴木康之．ムコ多糖症，Brain Medical　2012 年；24 巻：247－254.
9) 西城卓也．行動主義から構成主義，医学教育　2012 年；43 巻：290－291.
10) 西城卓也．正統的周辺参加と認知的徒弟制，医学教育　2012 年；43 巻：292－293.
11) 辻井正次，川上ちひろ．性と関係性の教育～発達障害の子どもとの実践から～　第 10 回「バーチャル(仮想)な世界と現実世界のつきあい方を区別する」，健康教室　2012 年；第 734 集：41－43.
12) 辻井正次，川上ちひろ．性と関係性の教育～発達障害の子どもとの実践から～　第 11 回「性的関心があると“誤解”されやすい行動を吟味する」，健康教室　2012 年；第 735 集：43－45.
13) 辻井正次，川上ちひろ．性と関係性の教育～発達障害の子どもとの実践から～　第 12 回「性的問題に対処する」，健康教室　2012 年；第 736 集：48－49.
14) 川上ちひろ．女性の ASD の人たちの思春期の支援について，アスペハート　2012 年；30 巻：22－27.

15) 鈴木康之. 医学・歯学教育者の人材育成, 日本歯科医学教育学会雑誌　2013 年；29 巻：7－10.
16) 藤崎和彦. 近年の医学生のありようと卒前医学教育, 民医連医療　2013 年；495 巻：14－17.
17) 川上ちひろ, 加藤永歳, 辻井正次. 地域でペアレントトレーニングを始めよう！発達障害の家族支援の第一歩<2>復興支援発！地域の事業所を核に地域でペアレントトレーニングを実施する, 地域保健　2013 年；44 集：62－71.
18) 川上ちひろ, 加藤永歳, 辻井正次. 地域でペアレントトレーニングを始めよう！発達障害の家族支援の第一歩<3>復興支援発！地域の事業所を核に地域でペアレントトレーニングを実施する<2>, 地域保健 2013 年；44 集：62－71.
19) 川上ちひろ. 思春期に大切な異性との人間関係の構築の支援, 児童心理　2013 年；67 巻：112－117.
20) 川上ちひろ. 関係を創る・築く・繋ぐ：発達障害のある子どもの成長【第 1 回】「発達障害のある子ども」と「関係」について：概論, 子どもの心と学校臨床　2013 年；9 号：99－111.
21) 西城卓也, 田川まさみ. 医学教育者が備えるべき教育能力, 医学教育　2013 年；44 巻：90－98.
22) 西城卓也, 菊川　誠. 魅力的な学習と効果的な教授方法①, 医学教育　2013 年；44 巻：133－142.
23) 菊川　誠, 西城卓也. 魅力的な学習と効果的な教授方法②, 医学教育　2013 年；44 巻：243－252.
24) 田川まさみ, 西城卓也. 医学教育における学習者の評価①, 医学教育　2013 年；44 巻：345－357.
25) 錦織　宏, 西城卓也. 医学教育における学習者の評価②, 医学教育　2013 年；44 巻：429－438.
26) 真嶋由貴恵, 中村裕美子, 丹羽雅之, 木下淳博, 吉田素文. 医療系教育における e ラーニングの動向－医療系 e ラーニング全国交流会(JMeL)からー, 教育システム情報学会　2014 年；31 巻：8－18.
27) 西城卓也, 丹羽雅之, 川上ちひろ, 今福輪太郎, 阪下和美, 藤崎和彦, 鈴木康之. 医学者教育における教育者養成のこれまでとこれからー医学教育セミナーとワークショップの歴史が示す将来ー, 医学教育　2014 年；45 巻：13－24.
28) 田川まさみ, 西城卓也, 錦織　宏. カリキュラムの開発, 医学教育　2014 年；45 巻：25－35.
29) 錦織　宏, 西城卓也, 田川まさみ. カリキュラム/プログラム評価, 医学教育　2014 年；45 巻：79－86.
30) 川上ちひろ. 関係を創る・築く・繋ぐ：発達障害のある子どもの成長【第 2 回】「発達障害のある子ども」と「関係」について：概論, 子どもの心と学校臨床　2014 年；10 号：97－108.
31) 川上ちひろ. 関係を創る・築く・繋ぐ：発達障害のある子どもの成長【第 3 回】「発達障害のある子ども」と「関係」について：概論, 子どもの心と学校臨床　2014 年；11 号：117－127.
32) 川上ちひろ. 自己理解「性の問題からのアプローチ」, アスペハート　2014 年；37 巻：52－56.
33) 川上ちひろ. 看護スタッフが感じる「“対応が難しい” 学習者」とは, 看護管理　2014 年；24 巻：932－939.

総説（欧文）

1) Tomatsu S, Mackenzie WG, Theroux MC, Mason RW, Thacker MM, Shaffer TH, Montaño AM, Rowan D, Sly W, Alméciga-Díaz CJ, Barrera LA, Chinen Y, Yasuda E, Ruhnke K, Suzuki Y, Orii T. Current and emerging treatments and surgical interventions for Morquio A syndrome: a review. Research and Reports in Endocrine Disorders. 2012;2:65-77.
2) Suzuki Y, Niwa M. e-PBL: possibilities and limitations. J Med Education. 2012;16:1-8.
3) Tomatsu S, Alméciga-Díaz CJ, Barbosa H, Montaño AM, Barrera LA, Shimada T, Yasuda E, Mackenzie WG, Mason RW, Suzuki Y, Orii KE, Orii T. Therapies of mucopolysaccharidosis IVA (Morquio A syndrome). Expert Opinion on Orphan Drugs. 2013;1:805-818.

原著（和文）

1) 西城卓也, 久保田伊代, 鈴木康之. 認知的徒弟制に基づいた, 学生による臨床指導医評価：マーストリヒト臨床教育評価表(The Maastricht Clinical Teaching Questionnaire (MCTQ))日本語版, 医学教育　2012 年；43 巻：86.
2) 阿部恵子, 若林英樹, 西城卓也, 川上ちひろ, 藤崎和彦, 丹羽雅之, 鈴木康之. Trait Emotional Intelligence Que-SF と Jefferson Scale of Physician Empathy の日本語版開発と信頼性・妥当性の検討, 医学教育　2012 年；43 巻：351－359.
3) 大西弘高, 川崎　勝, 椎橋美智男, 阿部幸恵, 大久保由美子, 片岡仁美, 杉本なおみ, 高村昭輝, 内藤　亮, 丹羽雅之. 医学教育情報館(MEAL)の構築プロセス, 医学教育　2012 年；43 巻：215－220.
4) 藤崎和彦. 新患アンケートを読むー患者の目線, 医療の課題, 大阪保険医雑誌　2012 年；552 巻：5－11.
5) 伊藤友美, 刈谷三月, 中里綾子, 藤崎和彦. 話を聞いて理解し, 自分の思いを伝える力を高める取り組み, 看護　2012 年；64 巻：48－51.
6) 志村俊郎, 吉井文均, 吉村明修, 阿部恵子, 高橋優三, 佐伯晴子, 藤崎和彦, 阿曽亮子, 井上千鹿子. 模擬患者・標準模擬患者(SP)養成のカリキュラム, 医学教育　2012 年；43 巻：33－36.
7) 阿部恵子, 藤崎和彦, 丹羽雅之, 鈴木康之. 医学生の Emotional Intelligence (EI)と Empathy：性差および学年差の検討, 医学教育　2013 年；44 巻：315－326.
8) 木尾哲朗, 俣木志朗, 藤崎和彦, 大西弘高, 小川哲次, 鬼塚千絵, 西原達次. 歯学士教育課程でのプロフェッショナリズム教育の構築, 日本歯科医学教育学会雑誌　2013 年；29 巻：63－74.
9) 會田信子, 半谷眞七子, 阿部恵子, 村岡千種, 久田　満, 鈴木伸一, 青松棟吉, 安井浩樹, 藤崎和彦, 植村和正. 模擬患者用ストレス調査票(SPSSQ)2013 年度版の開発と信頼性・妥当性の検証−模擬患者の健康と継続参加を志向したストレス状態の包括的測定−, 看護科学研究　2014 年；12 巻：1－23.

原著（欧文）

1） Tanaka A, Okuyama T, Suzuki Y, Sakai N, Takakura H, Sawada T, Tanaka T, Otomo T, Ohashi T, Ishige-Wada M, Yabe H, Ohura T, Suzuki N, Kato K, Adachi S, Kobayashi S, Mugishima H, Kato S. Long-term efficacy of hematopoietic stem cell transplantation on brain involvement in patients with mucopolysaccharidosis type II: A nationwide survey in Japan. Molecular Genetics and Metabolism. 2012;107:513-520. IF 2.827

2） Goda W, Satoh K, Nakashima M, Hara A, Niwa M. PBN fails to suppress in delayed neuronal death of hippocampal CA1 injury following transient forebrain ischemia in gerbils. Neurosci Lett. 2012;517:47-51. IF 2.055

3） Kawakami C, Ohnishi M, Sugiyama T, Someki F, Nakamura K, Tsujii M. The risk factors for criminal behaviour in high-functioning autism spectrum disorders(HFASDs):A comparison of childhood adversities between individuals with HFASDs who exhibit criminal behaviour and those with HFASD and no criminal histories. Research in Autism Spectrum Disorders. 2012;6:949-957. IF 2.378

4） Abe K, Evans P, Austin EJ, Suzuki Y, Fujisaki K, Niwa M, Aomatsu M. Expressing one's feelings and listening to others increases emotional intelligence: a pilot study of Asian medical students. BMC Med Educ. 2013;13:82. IF 1.409

5） Dũng VC, Tomatsu S, Montaño AM, Gottesman G, Bober MB, Mackenzie W, Maeda M, Mitchell GA, Suzuki Y, Orii T. Mucopolysaccharidosis IVA: Correlation between genotype, phenotype and keratin sulfate levels. Mol Genet Metab. 2013;110:129-138. IF 2.827

6） Tomatsu S, Fujii T, Fukushi M, Oguma T, Shimada T, Maeda M, Kida K, Shibata Y, Futatsumori H, Montaño AM, Mason RW, Yamaguchi S, Suzuki Y, Orii T. Newborn screening and diagnosis of mucopolysaccharidoses. Mol Genet Metab. 2013;110:42-53. IF 2.827

7） Yasuda E, Fushimi K, Suzuki Y, Shimizu K, Takami T, Zustin J, Patel P, Ruhnke K, Shimada T, Boyce B, Kokas T, Barone C, Theroux M, Mackenzie W, Nagel B, Ryerse JS, Orii KE, Iida H, Orii T, Tomatsu S. Pathogenesis of Morquio A syndrome: an autopsied case reveals systemic storage disorder. Mol Genet Metab. 2013:109:301-311. IF 2.827

8） Patel P, Suzuki Y, Maeda M, Yasuda E, Shimada T, Orii KE, Orii T, Tomatsu S. Growth charts for patients with Hunter Syndrome. Mol Genet Metab Rep. 2014;1:5-18. IF 2.827

9） Tomatsu S, Shimada T, Mason RW, Kelly J, LaMarr WA, Yasuda E, Shibata Y, Futatsumori H, Montaño AM, Yamaguchi S, Suzuki Y, Orii T. Assay for Glycosaminoglycans by Tandem Mass Spectrometry and its Applications. J Anal Bioanal Tech. 2014 DOI: http://dx.doi.org/10.4172/2155-6121.S2-006. 2014. IF 3.120

10） Taguchi A, Niwa M, Hoshi M, Saito K, Masutani T, Hisamatsu K, Kobayashi K, Hatano Y, Tomita H, Hara A. Indoleamine 2,3-dioxygenase 1 is upregulated in activated microglia in mice cerebellum during acute viral encephalitis. Neurosci Lett. 2014;564:120-125. IF 2.055

11） Niwa M, Yoshida S, Takamizawa K, Nagaoka S, Kawakubo N, Takahashi Y, Suzuki Y. Facilitation of web-based Internet PBL: what is an adequate group size?. IeJSME. 2014;8:4-11. IF 0.500

12） Imafuku R, Kataoka R, Mayahara M, Suzuki H, Saiki, T. Students' experiences in interdisciplinary problem-based learning: A discourse analysis of group interaction. Interdisciplinary Journal of Problem-based Learning. 2014;8:1-18.

4．研究費獲得状況

1）競争的資金

1） 研究代表者：岐阜大学医学教育開発研究センター；文科省特別経費教育関係共同実施分：多職種連携医療教育法の開発と FD の全国展開；平成 23－26 年度；62,000 千円(18,500：14,500：14,500：14,500 千円)

2） 研究代表者：鈴木康之，研究分担者：藤崎和彦，丹羽雅之，西城卓也；科学研究費補助金基盤研究(B)：医学・医療教育指導者の育成システム構築に関する研究；平成 23－25 年度；14,000 千円(5,000：4,500：4,500 千円)

3） 研究代表者：衛藤義勝，研究分担者：鈴木康之；厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業：ライソゾーム病(ファブリー病含む)に関する調査研究；平成 22－26 年度；12,900 千円(3,000：3,000：3,000：3,000：900 千円)

4） 研究代表者：丹羽雅之；科学研究費補助金基盤研究(C)：コバルトクロライド誘発網膜神経障害モデルを用いた再生治療に関する基礎的研究；平成 22－24 年度；4,160 千円(1,690：1,560：910 千円)

5） 研究代表者：河野健一，研究分担者：丹羽雅之；科学研究費補助金基盤研究(C)：6 年一貫プロフェショナリズム教育における e－ポートフォリオの開発と実践；平成 22－24 年度；3,640 千円(1,300：1,170：1,170 千円)

6） 研究代表者：阿部恵子(名古屋大学)，研究分担者：鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之，若林英樹，西城卓也，川上ちひろ；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：医学生の情動能力育成のための 6 年間継続

的コミュニケーション教育プログラムの開発；平成 23－25 年度；5,200 千円(2,340：1,430：1,430 千円)

7) 研究代表者：伴信太郎(名古屋大学), 研究分担者：西城卓也, 青松棟吉；学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究：臨床推論学習とコミュニケーション学習を融合した医療面接実習方略の構築とその評価；平成 23－25 年度；3,900 千円(1,820：1,170：910 千円)

8) 研究代表者：川上ちひろ；大学活性化経費(研究：科研採択支援)：コミュニケーションが苦手な医療系学生の支援ニーズと援助方法の開発及び啓発；平成 24 年度；500 千円

9) 研究代表者：西城卓也；大学活性化経費(研究：教育)：外国人医療スタッフとの映像を通じたインタラクティブな教育方略を基盤とする, 海外臨床実習参加志望医学生向けの, 医療英語・および基本的臨床技能教育プログラム(授業科目：医療英語(必修選択科目))；平成 24 年度；490 千円

10) 研究代表者：西城卓也, 研究分担者：鈴木康之, 川上ちひろ；科学研究費補助金基盤研究(B)：小グループ学習における医学生の学習スタイルに関する文化的検証とモデル開発；平成 24－26 年度；3,500 千円(1,300：1,500：700 千円)

11) 研究代表者：西城卓也；岐阜大学 COC 地域志向教育プロジェクト：岐阜大学医学部地域体験実習における市民との交流を通じた街づくり；平成 26 年度；200 千円

12) 研究代表者：今福輪太郎；科学研究費補助金若手研究(B)：専門職連携における医療人としてのアイデンティティー形成過程の解明とその教育的応用；平成 26－28 年度；3,640 千円(1,560：1,430：650 千円)

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

鈴木康之：

1) 日本医学教育学会理事, 評議員(～現在)
2) 日本小児科学会代議員(～現在)
3) 日本先天代謝異常学会, 評議員(～現在)
4) 日本人類遺伝学会評議員(～現在)
5) 東海臨床遺伝・代謝懇話会世話人(～現在)
6) 日本シミュレーション医療教育学会理事, 評議員(～現在)

藤崎和彦：

1) 日本医学教育学会評議員(～現在)
2) 日本医学教育学会医学教育専門家制度委員会副委員長(～現在)
3) 日本医学教育学会教材開発・SP 委員会副委員長(～現在)
4) 医療コミュニケーション研究会会長(～現在)
5) 日本ヘルスコミュニケーション学会監事(～現在)
6) RIAS 研究会日本支部(RIAS Japan)代表(～現在)

丹羽雅之：

1) 日本炎症・再生医学会評議員(～現在)
2) 日本薬理学会評議員(～現在)
3) 日本医学教育学会評議員(～現在)
4) 日本臨床薬理学会評議員(～現在)
5) 日本医学教育学会広報・情報基盤委員会委員(～現在)
6) 医療系 e-learning 全国交流会 副会長(～現在)

7） 教育システム情報学会編集委員(～現在)
8） 日本シミュレーション医療教育学会幹事，評議員(～現在)
9） 東海 7 大学医学教育連絡協議会幹事(～現在)
10） 教育システム情報学会人材育成委員会医療・看護部会委員(～現在)

西城卓也：
1） 日本医学教育学会医学教育専門家育成検討委員会ワーキングメンバー(平成 24 年 4 月～現在)
2） 日本医学教育学会編集委員会委員(平成 24 年 4 月～現在)
3） 日本医学教育学会教育研究開発委員(平成 24 年 4 月～現在)

川上ちひろ：
1） 日本医学教育学会準備教育・行動科学教育委員会委員(平成 26 年 1 月～現在)

今福輪太郎：
1） 日本シミュレーション医療教育学会編集委員(～現在)

阪下和美：
1） 日本医学教育学会国際関係委員(～現在)

2）学会開催

鈴木康之：
1） 第 43 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 24 年 1 月，岐阜)
2） 第 44 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 24 年 5 月，福島)
3） 第 45 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 24 年 8 月，岐阜)
4） 第 46 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 24 年 10 月，岐阜)
5） 第 54 回日本先天代謝異常学会(平成 24 年 11 月，岐阜)
6） 第 47 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 25 年 1 月，沖縄)
7） 第 48 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 25 年 6 月，京都)
8） 第 49 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 25 年 8 月，岐阜)
9） 第 50 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 25 年 11 月，岐阜)
10） 第 51 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 26 年 1 月，東京)
11） 第 52 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 26 年 5 月，秋田)
12） 第 53 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 26 年 8 月，岐阜)
13） 第 54 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 26 年 10 月，福岡)

藤崎和彦：
1） 第 22 回医療コミュニケーション研究会例会(平成 24 年 6 月，名古屋)
2） 第 7 回 RIAS トレーニングワークショップ(平成 24 年 8 月，東京)
3） 第 23 回医療コミュニケーション研究会例会(平成 24 年 12 月，名古屋)
4） 第 8 回 RIAS トレーニングワークショップ(平成 25 年 3 月，名古屋)
5） 第 24 回医療コミュニケーション研究会例会(平成 25 年 6 月，名古屋)
6） 第 5 回ヘルスコミュニケーション学会(平成 25 年 8 月，岐阜)
7） 第 25 回医療コミュニケーション研究会例会(平成 25 年 12 月，名古屋)
8） 第 9 回 RIAS トレーニングワークショップ開催(平成 26 年 2 月，東京)
9） 第 26 回医療コミュニケーション研究会例会(平成 26 年 5 月，名古屋)
10） 第 10 回 RIAS トレーニングワークショップ(平成 26 年 10 月，名古屋)
11） 第 27 回医療コミュニケーション研究会例会(平成 26 年 12 月，名古屋)

丹羽雅之：
1） 第 6 回医療系全国交流会(平成 24 年 1 月，岐阜)
2） 第 43 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 24 年 1 月，岐阜)
3） 第 44 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 24 年 5 月，福島)
4） 第 45 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 24 年 8 月，岐阜)

5） 第 46 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 24 年 10 月，岐阜)
6） 第 47 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 25 年 1 月，沖縄)
7） 第 48 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 25 年 6 月，京都)
8） 第 49 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 25 年 8 月，岐阜)
9） 第 50 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 25 年 11 月，岐阜)
10） 第 51 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 26 年 1 月，東京)
11） 第 52 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 26 年 5 月，秋田)
12） 第 53 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 26 年 8 月，岐阜)
13） 第 54 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 26 年 10 月，福岡)

3）学術雑誌

鈴木康之：
1） Medical Education；Editor(～現在)
2） 日本シミュレーション医療教育学会雑誌；編集委員(平成 25 年～現在)

丹羽雅之：
1） 教育システム情報学会編集委員(～現在)

今福輪太郎：
1） 日本シミュレーション医療教育学会；編集委員(～現在)

7．学会招待講演，招待シンポジスト，座長

鈴木康之：
1） 2nd Asian Congress for Inherited Metabolic Disease. (2012.04, Seoul, Symposium: Hematopoietic Stem Cell Transplantation for X-linked Adrenoleukodystrophy; Symposist)
2） 第 37 回日本小児神経学会東海地方会(平成 24 年 7 月，名古屋，特別講演「医療者教育 10 年の経験から」演者)
3） 第 44 回日本医学教育学会(平成 24 年 7 月，横浜，シンポジウム「認定医学教育専門家の位置づけと求められる役割」座長)
4） 第 44 回日本医学教育学会(平成 24 年 7 月，横浜，パネルディスカッション「診療参加型臨床実習の評価」座長)
5） 第 54 回日本先天代謝異常学会(平成 24 年 11 月，岐阜，会長講演「研究生活からの学び」演者)
6） 第 26 回日本小児脂質研究会(平成 24 年 11 月，川越，特別講演「ペルオキシソームにおける脂肪酸代謝とその異常」演者)
7） 第 12 回日本小児医学教育研究会(平成 24 年 12 月，東京，特別講演「小児科専門医の能力向上を目指して」演者)
8） 平成 24 年度先導的大学改革推進委託事業「高齢社会を踏まえた医療供給体制見直しに対応する医療系教育の在り方に関する調査研究」医学チーム(平成 24 年 12 月，東京，シンポジウム「多職種連携教育法の開発と FD の全国展開」シンポジスト)
9） 第 32 回日本歯科医学教育学会(平成 25 年 7 月，札幌，特別講演「医学・歯学教育者の人材育成」演者)
10） 第 45 回日本医学教育学会(平成 25 年 7 月，千葉，シンポジウム「コンピテンシーを基盤とする専門医認定をめざして：日本小児科学会の取り組み」演者)
11） 第 45 回日本医学教育学会(平成 25 年 7 月，千葉，パネルディスカッション「教育の質の改善をめざして、医学教育の根拠を遣う，創る」座長)
12） 第 2 回全国シンポジウム「日本の国情・2 次医療研の実情を熟考して、理想的医師・医療者育成教育の展開を考える」(平成 25 年 11 月，秋田，特別講演「医療者教育の人材育成戦略—日本の覚悟と挑戦：MEDC 12 年の経験から」演者)
13） 第 127 回関東連合産科婦人科学会(平成 26 年 6 月，東京，モーニングセミナー「専門医制度改革を視野に入れた日本小児科学会の取組」演者)
14） 第 46 回日本医学教育学会大会(平成 26 年 7 月，和歌山，日韓医学教育学会交流招請講演「Students' perception of education climate in Korean medical schools」座長)
15） 第 46 回日本医学教育学会大会(平成 26 年 7 月，和歌山，パネルディスカッション「医学教育研究は

じめの一歩：論文執筆に向けた 12 Tips」座長)
16) 第 46 回日本医学教育学会大会(平成 26 年 7 月，和歌山，産学連携セミナー4「国際的医療人育成を視野に入れた臨床医学教育のあり方とオンラインデータベースの活用法」座長)
17) 第 46 回日本医学教育学会大会(平成 26 年 7 月，和歌山，Lunch Talk with the Specialist 2「making research relevant; can we improve on our present position?」座長)
18) 3rd Asia -Pacific Joint Conference on Problem-Based Learning (APJC-PBL) 2014(2014.12, Thailand, Debate Session II: e-PBL vs f-PBL; Presentar)
19) 第 14 回日本小児医学教育研究会(平成 26 年 12 月，大阪，特別講演「小児科指導者として如何に小児科医の総合的能力を伸ばすか?」演者)

藤崎和彦：
1) 第 1 回岐阜県歯科衛生士会研修会(平成 24 年 5 月，岐阜，特別講演「歯科衛生士に必要なコミュニケーション」演者)
2) 第 44 回日本医学教育学会(平成 24 年 7 月，横浜，シンポジウム「認定医学教育専門家の位置づけと求められる役割」座長)
3) 九州大学登録模擬患者 15 周年記念シンポジウム(平成 24 年 8 月，福岡，基調講演「わが国の模擬患者　現在・過去・未来」演者)
4) COML 模擬患者活動 20 周年記念シンポジウム(平成 24 年 10 月，大阪，パネルディスカッション「模擬患者の役割と展望-医学教育の立場から-」パネリスト)
5) 第 2 回シンポジウム「歯学士教育課程でのプロフェッショナリズム教育の構築」(平成 24 年 11 月，北九州市，特別講演「医療人プロフェッショナル教育は必要か」演者)
6) 名古屋 SP 研究会 10 周年記念シンポジウム(平成 24 年 11 月，名古屋，基調講演「大学を越えた SP 連携の可能性」演者)
7) 第 13 回福岡県薬剤師会ファーマシューティカルケアシンポジウム(平成 25 年 3 月，福岡，基調講演「患者支援のためのコミュニケーションスキルアップ」演者)
8) 神戸学院大学特別研修会(平成 25 年 3 月，神戸，基調講演「SP に求められる演技とフィードバック」演者)
9) 第 45 回日本医学教育学会(平成 25 年 7 月，千葉，シンポジウム「シミュレーション教育資源の有効利用を促す」座長)
10) 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部「第 3 回 How to 医療コミュニケーション教育」(平成 25 年 11 月，徳島，特別講演「医歯薬学教育アウトカムに応じた模擬患者育成」演者)
11) 平成 25 年度第 4 回愛知県女性薬剤師会学術講演会(平成 25 年 11 月，名古屋，基調講演「薬剤師のための行動変容援助スキル理論編①」演者)
12) 第 3 回シンポジウム「歯学医療人育成におけるプロフェッショナリズム教育の方略を考える」(平成 26 年 2 月，北九州，基調講演「アウトカム基盤型教育時代のプロフェッショナリズムの教育と評価」演者)
13) 日本薬学会第 134 年会シンポジウム「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」(平成 26 年 3 月，熊本，「共用試験で終わらない医療専門職教育―グローバリゼーション中でアウトカム基盤型教育への対応―」シンポジスト)
14) 平成 25 年度第 5 回愛知県女性薬剤師会学術講演会(平成 26 年 3 月，名古屋，基調講演「薬剤師のための行動変容援助スキル実戦編②」演者)
15) 神戸学院大学模擬患者会 2014 年度特別研修会(平成 26 年 3 月，神戸，基調講演「感情の動きに注目した SP の演技とフィードバック」演者)
16) 愛知県薬剤師会平成 26 年度第 1 回医療コミュニケーション研修会(平成 26 年 6 月，名古屋，基調講演「医療コミュニケーション・スキルの基本を学ぶ」演者)
17) 愛知県薬剤師会平成 26 年度第 2 回医療コミュニケーション研修会(平成 26 年 6 月，名古屋，基調講演「医療コミュニケーション・スキルの基本を模擬患者演習で身につける」演者)
18) 愛知県薬剤師会平成 26 年度第 3 回医療コミュニケーション研修会(平成 26 年 7 月，名古屋，基調講演「中上級レベルの医療コミュニケーション・スキルを模擬患者演習で身につける」演者)
19) 第 24 回日本医療薬学会年会シンポジウム「今，考えよう，あなたのコミュニケーション」(平成 26 年 9 月，名古屋，基調報告「患者との良好なコミュニケーションをとるうえでのポイント」演者)
20) 第 16 回日本歯科医療管理学会九州支部学術大会ワークショップ「チームで目指す，安心・安全，そして信頼」(平成 26 年 11 月，佐賀，キーノートスピーチ「医療人であること，そしてチームというこ

と」演者)
21) 平成 26 年度島根県立大学模擬患者スキルアップセミナー(平成 26 年 11 月，出雲，基調報告「効果的なフィードバックについて」演者)
22) 平成 26 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム「学部間協力による芸術学部標準模擬患者養成」(平成 26 年 12 月，東京，基調講演「全国における模擬患者・標準模擬患者養成の現状」演者)

丹羽雅之：
1) 第 7 回医療系 e-ラーニング全国交流会(平成 25 年 1 月，徳島，招待講演，座長)
2) 第 45 回日本医学教育学会(平成 25 年 7 月，千葉，パネルディスカッション「ネットワークを活用した医療者教育の情報のあり方」座長)
3) 第 46 回日本医学教育学会(平成 26 年 7 月，和歌山，シンポジウム「e-ラーニングを機能させるためのシステムと考え方」座長)

西城卓也：
1) 第 44 回日本医学教育学会(平成 24 年 7 月，横浜，シンポジウム「医学教育専門家認定制度を考える」シンポジスト)
2) 第 46 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 24 年 10 月，岐阜,「教育設計の原理―医学教育への実践的応用」座長)
3) 全国シンポジウム『日本の国情・2 次医療圏の実情を熟考して，理想的医師・医療者育成教育の展開を考える 2012』(平成 24 年 11 月，秋田，シンポジウム「連携教育が直面する挑戦：最近の研究と知見から学ぶこと」シンポジスト)
4) 第 47 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 25 年 1 月，沖縄，特別講演「Understanding how we learn: Implications for Educators」座長)
5) 学生・研修医のためのプライマリ・ケアの集い in 長崎(平成 25 年 2 月，長崎，特別講演「内科医になるための後期研修プログラムをデザインする」演者)
6) 第 45 回日本医学教育学会(平成 25 年 7 月，千葉，シンポジウム「医学教育の根拠を使う、創る」座長)
7) 第 45 回日本医学教育学会(平成 25 年 7 月，千葉，シンポジウム「叡智のフレームワーク」座長・演者)
8) 第 45 回日本医学教育学会(平成 25 年 7 月，千葉，シンポジウム「専門医育成講習会のアウトライン」演者)
9) 第 45 回日本医学教育学会(平成 25 年 7 月，千葉，シンポジウム「専門医育成コースワーク」演者)
10) 第 5 回日本ヘルスコミュニケーション学会(平成 25 年 8 月，岐阜，シンポジウム「継続的な交流と省察を通じた“社会における個人”の理解の深化」シンポジスト)
11) 第 50 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 25 年 11 月，岐阜，特別講演「A journey, not a destination. 終着駅のない旅」座長)
12) 第 50 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 25 年 11 月，岐阜，シンポジウム「発信する医療教育. 部門発展，研究推進，キャリア開発」演者)
13) 第 46 回日本医学教育学会(平成 26 年 7 月，和歌山，講演「Lunch talk with Specialists2: Making research Relavant: can we improve on our present position?」座長)
14) 第 46 回日本医学教育学会(平成 26 年 7 月，和歌山，シンポジウム「臨床推論の教育」座長)
15) 第 46 回日本医学教育学会(平成 26 年 7 月，和歌山，パネルディスカッション「医学教育研究はじめの一歩：論文執筆に向けた 12Tips」演者)
16) 第 47 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 26 年 8 月，岐阜，セミナー「医学教育における学習者評価」座長)
17) Conference of Collaborative Project to Increase Production of Rural Doctor 2014.(2014.09, Khaoyai, Thailand, Invited Lecture: The East meets the West.Cross cultural approach in medical education; Invited Speaker)
18) 平成 26 年度大学改革シンポジウム「地域・市民とともに育てる医療人」(平成 26 年 12 月，岐阜，総合司会)

阪下和美：
1) 第 2 回全国シンポジウム「日本の国情・2 次医療圏の実情を熟考して，理想的医師・医療者育成教

育の展開を考える 2013」(平成 25 年 11 月，秋田，シンポジウム「総合小児科医の作り方～米国レジデンシー教育から日本が応用できるもの～」演者・シンポジスト)

8. 学術賞等の受賞状況

1） 西城卓也：医学教育賞(懸田賞)(平成 24 年度)
2） 西城卓也：Best Poster Presentation. A finalist Award. (10th Asia Pacific Medical Education Conference)(平成 25 年度)

9. 社会活動

鈴木康之：

1） 医師国家試験委員(～平成 24 年)
2） 日本ムコ多糖症親の会顧問(～現在)
3） ALD 親の会顧問(～現在)
4） 東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター運営委員(～現在)
5） 社団法人日本専門医制評価・認定機構チーフサーベイヤー(～平成 25 年)
6） 科学研究費委員会専門委員(日本学術振興会)(平成 24 年度)
7） JICA「ベトナム保健医療従事者の質の改善プロジェクト」(平成 24 年度～現在)
8） 国立大学医学部長会議教育制度・カリキュラムに関する小委員会委員(平成 25 年度～現在)
9） 国立大学医学部長会議臨床教育合同会議委員(平成 26 年度～現在)
10） 日本専門医機構基本領域(小児科)専門医委員会委員(平成 26 年度～現在)
11） 日本専門医機構基本領域(小児科)研修委員会委員(平成 26 年度～現在)

藤崎和彦：

1） 医療系大学間共用試験実施評価機構医学系 OSCE 実施小委員会模擬患者標準化専門部会副部会長(平成 24 年～現在)
2） 多治見市健康づくり計画策定会議アドバイザー(平成 24 年度～現在)

西城卓也：

1） NPO 法人卒後臨床研修評価機構サーベイヤー(～現在)

10. 報告書

1） 鈴木康之，田邊政裕，朝比奈真由美：ニューズ．第 42 回医学教育セミナーとワークショップ in 千葉：医学教育 43：32(平成 24 年 2 月)
2） 藤崎和彦：愛知学院大学歯学部における FD 講演会：愛知学院大学大学院歯学研究科未来口腔医療研究センター「未来口腔医療研究センター報告書 2 号」：1－28(平成 24 年 3 月)
3） 藤崎和彦：OSCE で終わらない医師の医療面接スキル：鳥取大学医学部総合医学教育センター「地域医療を担う全人的医療人養成事業平成 23 年度成果報告書」：7－9(平成 24 年 3 月)
4） 藤崎和彦：SP 参加型医療面接教育の意義と模擬患者の役割：鳥取大学医学部総合医学教育センター「地域医療を担う全人的医療人養成事業平成 23 年度成果報告書」：78－87(平成 24 年 3 月)
5） 藤崎和彦，田川まさみ，西城卓也，井内康輝，錦織　宏，渡邊洋子，大谷　尚，守屋利佳，吉岡俊正，吉田素文，鈴木康之：日本医学教育学会認定医学教育専門家資格制度創設への提言：医学教育　43：221－231(平成 24 年 6 月)
6） 丹羽雅之：全国ユニット機関名簿：医学教育　43：253－262(平成 24 年 6 月)
7） 鈴木康之：第 54 回日本先天代謝異常学会：特殊ミルク情報　48：61－63(平成 24 年 11 月)
8） 丹羽雅之：アナウンスメント．第 47 回医学教育セミナーとワークショップ：医学教育　43：440 (平成 24 年 12 月)
9） 丹羽雅之：全国ユニット機関名簿：医学教育　44：198－208(平成 25 年 6 月)
10） 藤崎和彦：模擬患者の役割と展望－医学教育の立場から：ささえあい医療人権センターCOML 編「COML 模擬患者活動 20 周年記念シンポジウム報告集」ささえあい医療人権センターCOML：15－19(平成 25 年 10 月)
11） 鈴木康之，錦織　宏：ニューズ．第 48 回医学教育セミナーとワークショップ in 京都大学：医学教育 44：368－369(平成 25 年 10 月)
12） 鈴木康之：ムコ多糖症 II 型の成長曲線作成：厚生労働省研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)平

成 25 年度総括・分担研究年度終了報告書：69－71(平成 26 年 3 月)
13) 鈴木康之：ムコ多糖症および副腎白質ジストロフィーの早期診断治療：厚生労働省研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)総合研究報告書：109－112(平成 26 年 3 月)
14) 鈴木康之：医学・医療教育指導者の育成システム構築に関する研究：科学研究費補助金基盤研究(B)23390129 平成 23 年度～25 年度研究成果報告書：1－118(平成 26 年 3 月)
15) 藤崎和彦：特別寄稿：模擬患者活動 10 周年おめでとうございます：日本医科大学模擬患者養成と活動 10 年の歩み(日本医科大学教育推進室･日本医科大学 SP の会)：2(平成 26 年 3 月)
16) 丹羽雅之：全国ユニット機関名簿：医学教育　45：224－236 (平成 26 年 6 月)
17) 今福輪太郎：意見. 特集「多職種連携教育」を読んで：医学教育　45：296－297(平成 26 年 8 月)
18) 今福輪太郎, 長谷川仁志：ニューズ. 第 52 回医学教育セミナーとワークショップ in 秋田：医学教育 45：300－302(平成 26 年 8 月)
19) 鈴木康之：ニューズ. 第 53 回医学教育セミナーとワークショップ：医学教育 45：381－383(平成 26 年 10 月)
20) 藤崎和彦：市民とともに良い医師を育てる：平成 26 年度大学改革シンポジウム　地域・市民とともに育てる医療人報告書(国立大学法人岐阜大学医学教育開発研究センター)：18－21(平成 26 年 12 月)
21) 藤崎和彦：世界的な医学教育の流れと成人学習理論：第 9 回岐阜県医師育成・確保コンソーシアム臨床研修指導医講習会報告書(岐阜県医師育成・確保コンソーシアム)：22－24(平成 26 年 12 月)
22) 藤崎和彦：カリキュラム・プランニング　学習目標：第 9 回岐阜県医師育成・確保コンソーシアム臨床研修指導医講習会報告書(岐阜県医師育成・確保コンソーシアム)：25－28(平成 26 年 12 月)
23) 藤崎和彦：カリキュラム・プランニング　学習方略：第 9 回岐阜県医師育成・確保コンソーシアム臨床研修指導医講習会報告書(岐阜県医師育成・確保コンソーシアム)：116－119(平成 26 年 12 月)
24) 藤崎和彦：カリキュラム・プランニング　学習評価：第 9 回岐阜県医師育成・確保コンソーシアム臨床研修指導医講習会報告書(岐阜県医師育成・確保コンソーシアム)：119－123(平成 26 年 12 月)
25) 藤崎和彦：全国における模擬患者・標準模擬患者養成の現状：平成 26 年度日本大学学部間連携推進シンポジウム　学部間協力における芸術学部標準模擬患者養成報告書(日本大学医学部医学教育企画推進)：19－25(平成 26 年 12 月)

11. 報道

1) 鈴木康之：お医者さんになるためには？：中日こどもウィークリー(2012 年 3 月 31 日)
2) 藤崎和彦：患者との『対話力』向上　医学生の『面接』教育　寄り添う技術を模擬訓練で磨く：中日新聞(2012 年 7 月 24 日)
3) 藤崎和彦：地域医療の質アップに貢献　医学生の問診力を育てる『模擬患者』：産経新聞(2012 年 8 月 20 日)
4) 川上ちひろ：自閉症スペクトラム障害児への性教育プログラム実践：教育医事新聞(2012 年 9 月 25 日)
5) 西城卓也：総合医の育成：NHK テレビ(2012 年 11 月 17 日)
6) 藤崎和彦：模擬患者の役割と展望－医学教育の立場から：COML No. 268(2012 年 12 月 15 日)
7) 藤崎和彦:クレームを減らし, 患者さんと向き合うために:iEst 私と東部を繋ぐ院内報 Vol.02 (2013 年 2 月 28 日)
8) 阪下和美：Girls, be ambitious !!米国女性医師の出産・育児事情から：週間医学界新聞　第 3026 号(2013 年 5 月)
9) 藤崎和彦：卒前医学教育：医学連新聞 243 号(2013 年 7 月 16 日)
10) 藤崎和彦：世界的なレベルのコミュニケーション教育が求められます：COML No. 279 (2013 年 11 月 15 日)
11) 藤崎和彦：グローバルスタンダードの導入：医学連新聞 245 号(2013 年 12 月 15 日)
12) 藤崎和彦：学生医(student doctor)導入に伴う諸課題：医学連新聞第 246 号(2014 年 2 月 10 日)
13) 藤崎和彦：ある日の SP(模擬患者) セミナーの活動報告：より良い医療をつくる会報誌コムル No.282(2014 年 2 月 15 日)
14) 医療現場の連携学ぶ　学生ら多職種セミナー：岐阜新聞(2014 年 6 月 14 日)
15) 医学教育の拠点, 国際化へ　岐阜大学の研究センター来年度以降も文科省認定：朝日新聞(2014 年 9 月 18 日)
16) 全国の医学教育共同利用拠点　岐阜大センター再認定：岐阜新聞(2014 年 9 月 18 日)
17) 藤崎和彦：納得のいく医学教育を考えよう：Medi-Wing, Vol.60(2014 年 10 月)

18） 第 54 回医学教育セミナーとワークショップ in 九州大学：文教ニュース(2014 年 11 月 24 日)
19） 藤崎和彦：市民の力で医師育成-岐阜大がシンポ：岐阜新聞(2014 年 12 月 6 日)
20） 岐阜大が九大と医学教育セミナーとワークショップ：文教速報(2014 年 12 月 8 日)

12. 自己評価

評価

これまでに社会人大学院生 8 名を日本各地から受け入れることができ，本分野の認知度と必要性は高まっていると判断される。入学者はいずれも中堅の指導医，教員であり，今後それぞれの専門分野で指導者として活躍することが期待される。各大学院生の調査研究は順調に推移しており，まもなく論文として研究成果が出せる段階となっている。以下のようなテーマで教育研究を推進している。

1) カリキュラム開発と学生評価法
2) コミュニケーション教育と Professionalism 教育法
3) 効果的な問題基盤型学習法
4) シミュレーション教育法
5) 地域基盤型医学教育と総合医の育成法
6) 効果的な臨床教育法・指導法
7) 日本における医学教育学研究の推進と専門家育成法
8) 適切な学生・研修医選抜法
9) 専門医・指導医のアウトカム・コンピテンシー
10) 緩和医療教育法

現状の問題点及びその対応策

医学教育学の研究の歴史は浅く，また研究手法も一般的な医学生物学領域の研究と大きく異なるが，欧米では 1 つの研究分野として確立している。本邦においても医学教育学分野の存在と意義に関して認識を広める必要性がある。また研究手法を確立し，普及する役割も担っていると考えている。現状では医学教育研究分野に関心を示す医師・医療関係者はまだ少ないが，潜在的ニーズは大きいと期待されるので,その発掘に努めたい。また社会人大学院生に対する遠隔指導が重要であり，その方法やサポート体制についても整備を進める必要がある。

今後の展望

医学教育学が大学院の一分野として確立されつつあり，着実な研究成果の発信と人材育成を通して，我が国における医学教育学の確立に貢献することが中長期的な目標である。医学教育専門家育成の裾野を広げるために，平成 27 年度からフェローシッププログラムを開始する予定である。将来的には医療者教育の修士課程構築も視野に入れている。さらに国際交流を通じて，日本の医学教育を世界に発信していきたいと考えている。